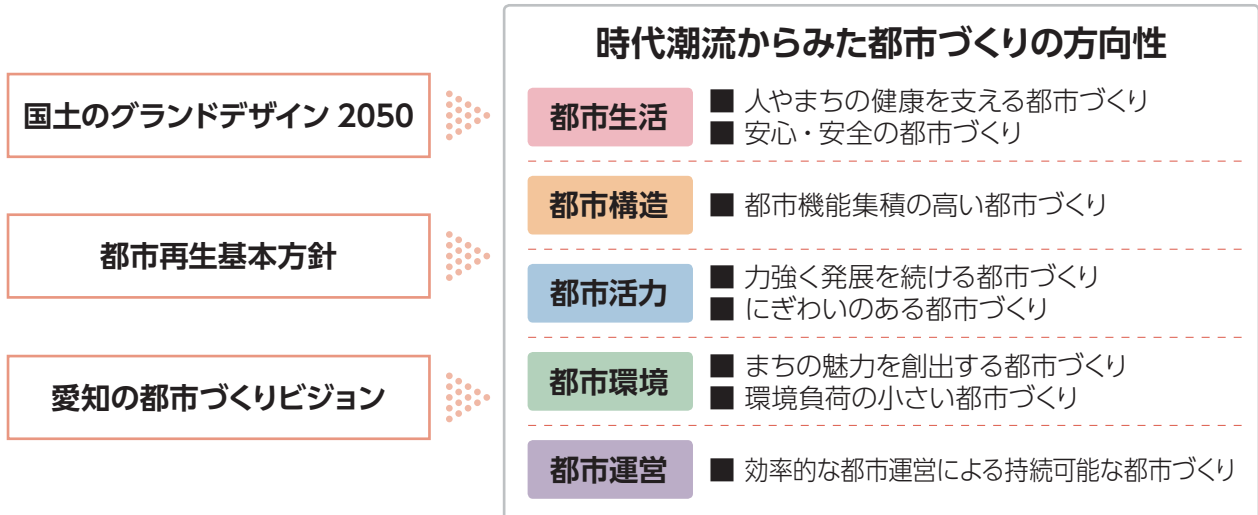


① 時代潮流からみた都市づくりの方向性

「国土のグランドデザイン2050」における今後の国土づくりの基本的な考え方(12の基本戦略)、「都市再生基本方針」における都市再生の取組に関する基本的な方針(13の基本的方針)及び「愛知の都市づくりビジョン～都市計画の基本的方針～」における都市づくりの基本方向(5つの基本方向)から、大府市の都市づくりの課題を整理する上で前提となる『時代潮流からみた都市づくりの方向性』を以下のように整理します。



国土のグランドデザイン2050 (国土交通省)	都市再生基本方針 (国土交通省)	愛知の都市づくりビジョン (愛知県)
国土のグランドデザイン2050は、国土を巡る大きな状況の変化や危機感を共有しつつ、2050年を見据えた国土づくりの理念や考え方を示すもの 【基本戦略】 ● 国土の細胞としての「小さな拠点」と、高次地方都市連合等の構築 ● 攻めのコンパクト・新産業連合・価値創造の場づくり ● スーパー・メガリージョンと新たなリンクの形成 ● 日本海・太平洋2面活用型国土と圏域間対流の促進 ● 国の光を觀せる観光立国の実現 ● 田舎暮らしの促進による地方への人の流れの創出 ● 子供から高齢者まで生き生きと暮らせるコミュニティの再構築 ● 美しく、災害に強い国土 ● インフラを賢く使う ● 民間活力や技術革新を取り込む社会 ● 国土・地域の担い手づくり ● 戦略的サブシステムの構築も含めたエネルギー制約・環境問題への対応	我が国の活力の源泉である都市について、その魅力と国際競争力を高め、都市再生を実現するため、都市の再生に関する施策の重点的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針を示すもの 【施策の基本的方針】 ● 関係者との連携 ● 都市のコンパクト化の推進等 ● 産業の競争力を向上させる環境整備 ● 質の高い生活を確保するための諸機能の整備 ● 医療・福祉サービスの的確な提供等 ● 急激に高齢化が進展するニュータウン等の再生 ● 子どもを生み育てやすい環境の整備 ● 犯罪等の起きにくいまちづくりの推進 ● 魅力あるまちづくりの推進 ● 災害に強いまちづくりの推進 ● 環境負荷の低減と自然との共生 ● 安定的な民間都市開発推進のためのファイナンス環境の整備等 ● 情報通信技術の利活用の促進等による都市機能の高度化	人口減少・超高齢社会の到来や大規模自然災害への対応など、都市計画における新たな課題の発生や、経年による様々な社会経済情勢などの変化に的確に対応するため、愛知県における今後の都市計画の基本的方針を示すもの 【都市づくりの基本理念】 『時代の波を乗り越え、元氣と暮らしやすさを育みつづける未来へ』 【都市づくりの基本方向】 ● 暮らしやすさを支える集約型都市構造への転換 ● リニア新時代に向けた地域特性を最大限活かした対流の促進 ● 力強い愛知を支えるさらなる産業集積の推進 ● 大規模自然災害等に備えた安全安心な暮らしの確保 ● 自然環境や地球温暖化に配慮した環境負荷の小さな都市づくりの推進

② 現状と課題の整理

時代潮流からみた都市づくりの方向性ごとに、大府市の強みと弱みを把握し、強みを伸ばす課題と弱みを克服する課題に整理します。

(1) 都市生活

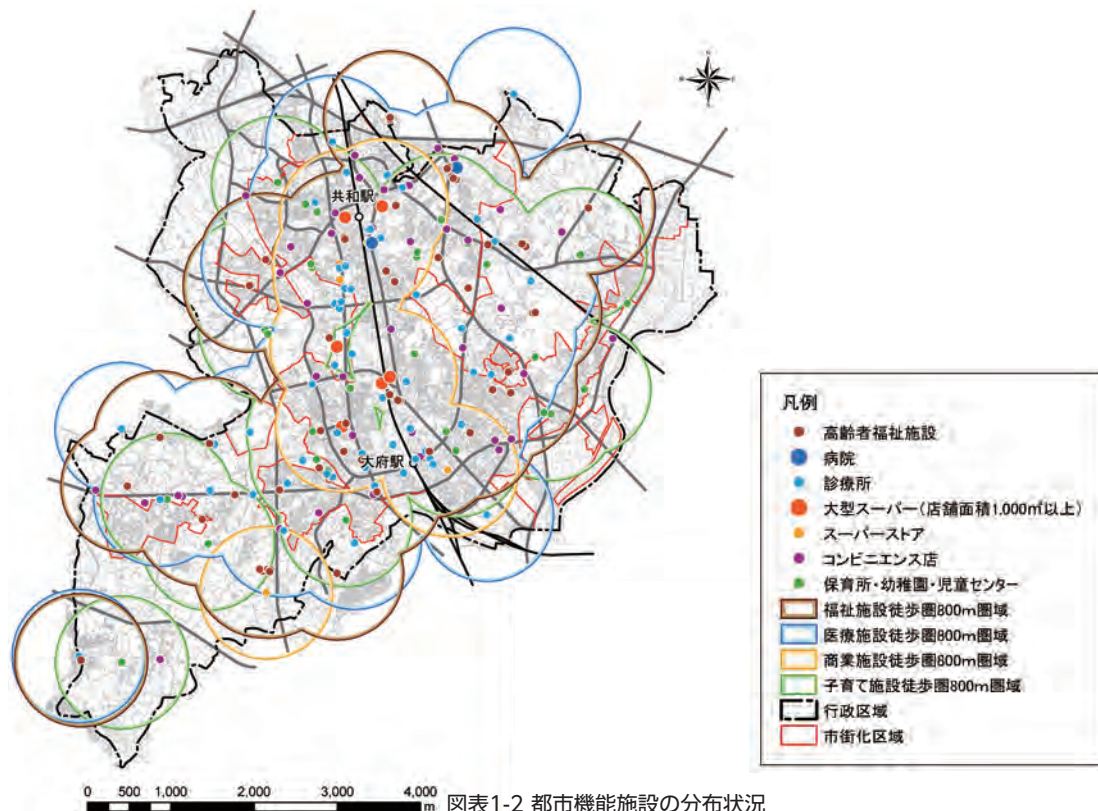
■ 人やまちの健康を支える都市づくり

課 題 暮らしやすい日常生活を確保するための都市機能の維持 【強みを伸ばす】

- ウェルネスバレー基本計画に基づき、健康長寿関連施設の立地を誘導しています。
- 市街化区域とその外縁部に当たる地域では、買い物などの日常生活の利便や医療・福祉・子育て施設などの安心を支える都市機能が概ね徒歩で利用できる範囲に分布しており、高齢者・子育て世代をはじめ誰もが暮らしやすい市街地の形成が進んでいます。



図表1-1 ウェルネスバレー周辺における健康長寿関連施設の分布 (出典:大府市資料)

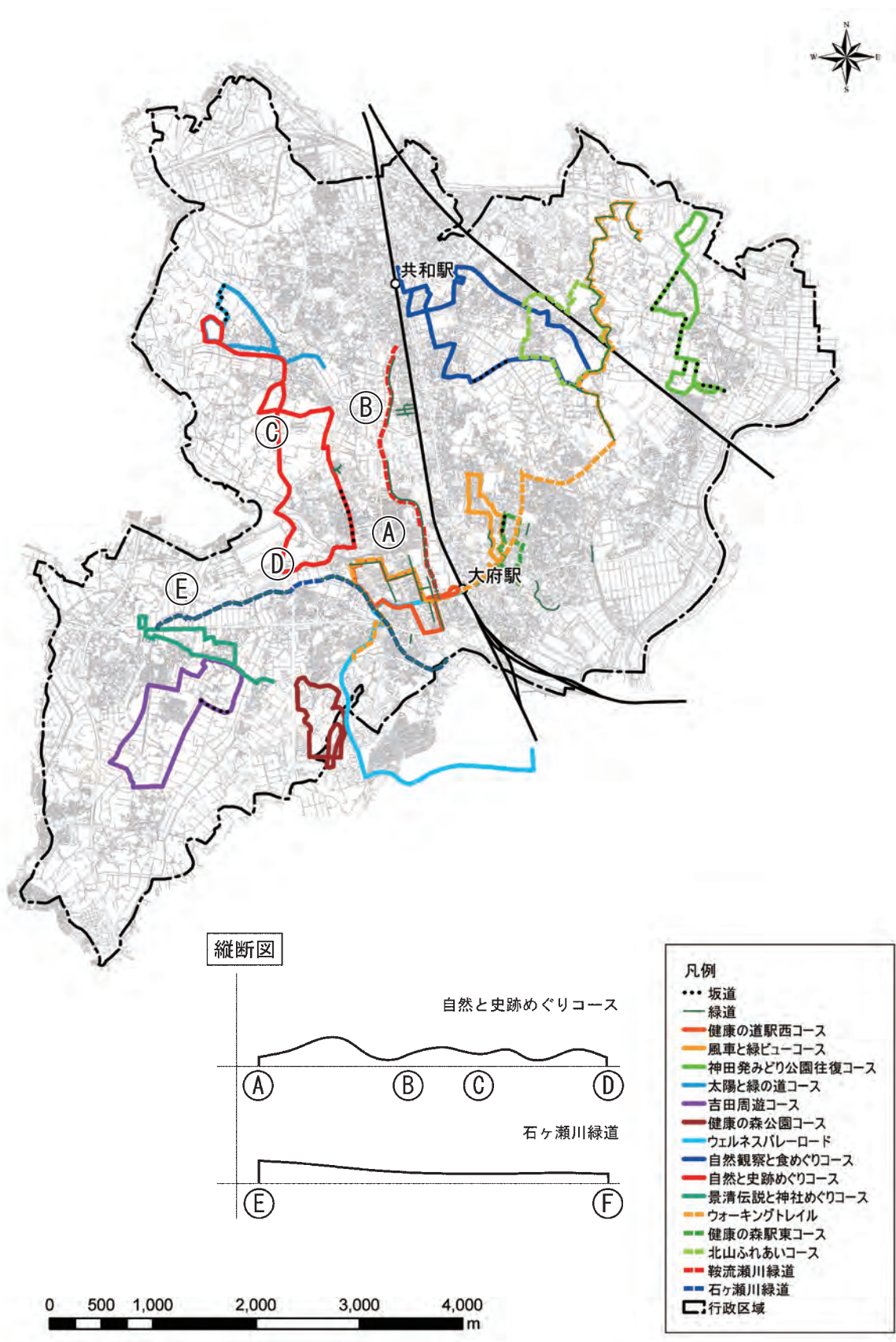


図表1-2 都市機能施設の分布状況

課 題

健康づくりの視点に立った緑道などの整備推進 【強みを伸ばす】

- 生活習慣病の改善や認知症の予防など、健康の維持・増進に資するウォーキングの取組や河川堤防道路などを活用した緑道整備が進められています。

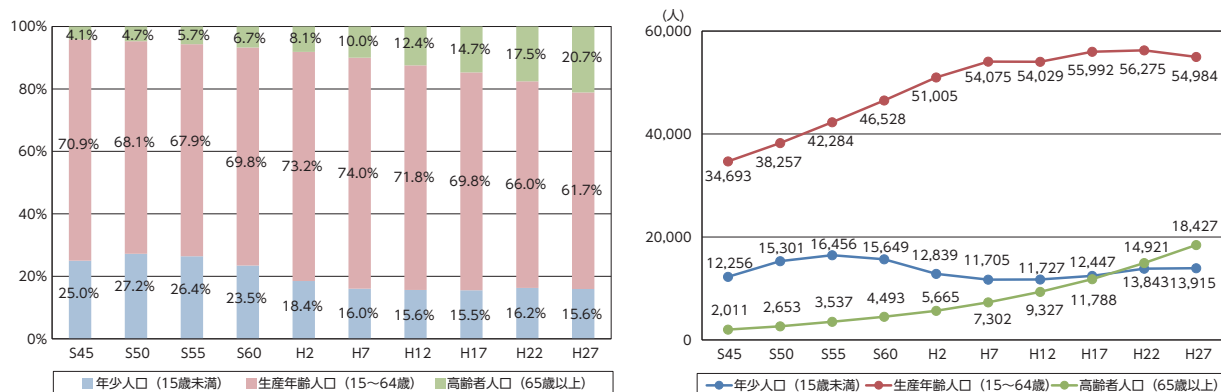


図表1-3 緑道の整備状況及びウォーキングコースの分布 (出典:大府市資料)

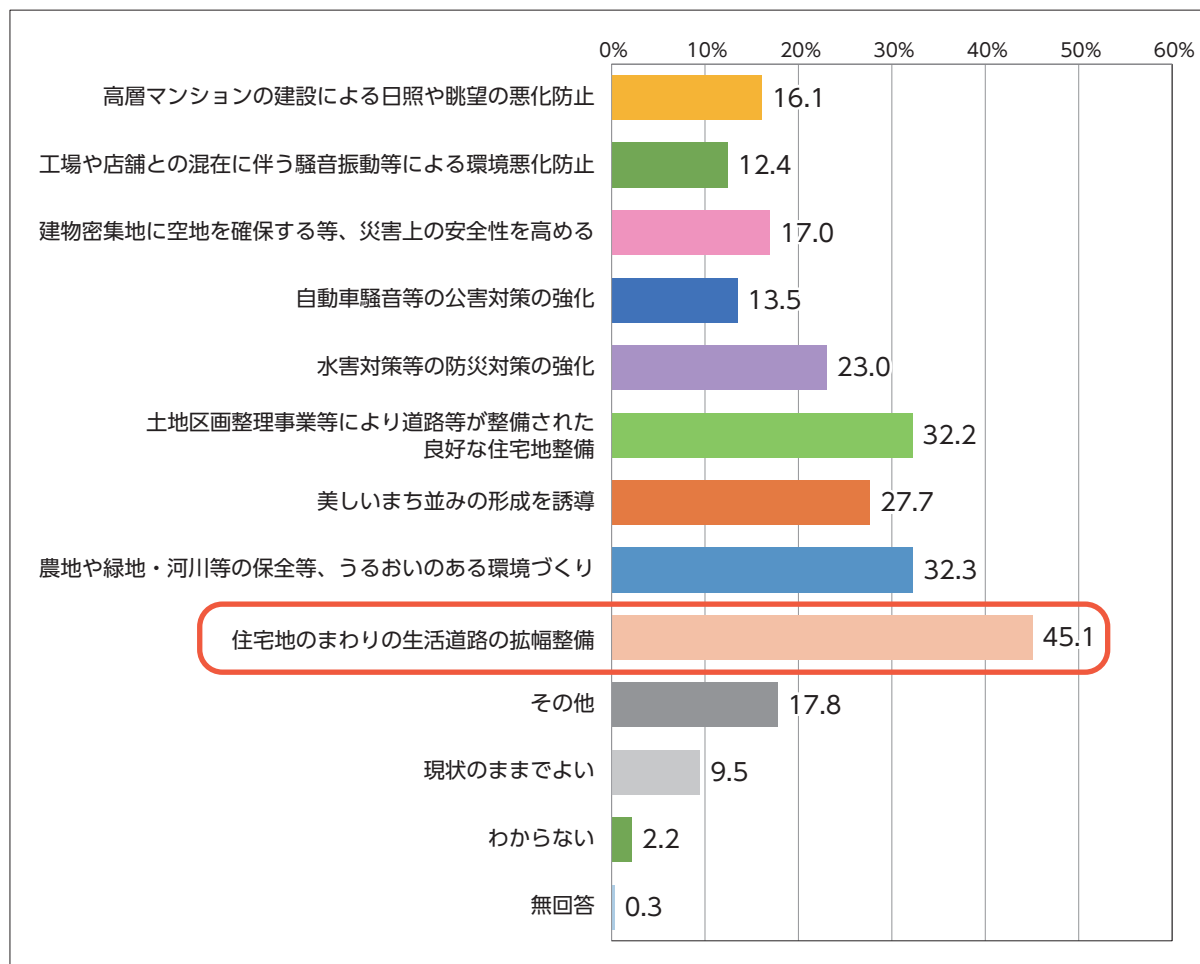
課 題

高齢者などの日常生活を支え、誰もが安心して外出できる基盤づくりとして、生活道路の整備の推進や移動しやすい歩行者・自転車空間の確保及び公共交通サービスの充実【弱みを克服する】

- 高齢者が増加している一方、年少人口は横ばいで推移、生産年齢人口は減少に転じており、少子高齢化が進行しています。
- 市民アンケート調査では、住みやすくするための必要な取組として、「住宅地のまわりの生活道路の拡幅整備（45.1%）」が最も高い回答率となっています。
- 本市には南北にJR東海道本線が整備され、鉄道駅が2駅設置されています。また、鉄道駅を中心に大府市循環バス「ふれあいバス」などが運行されています。

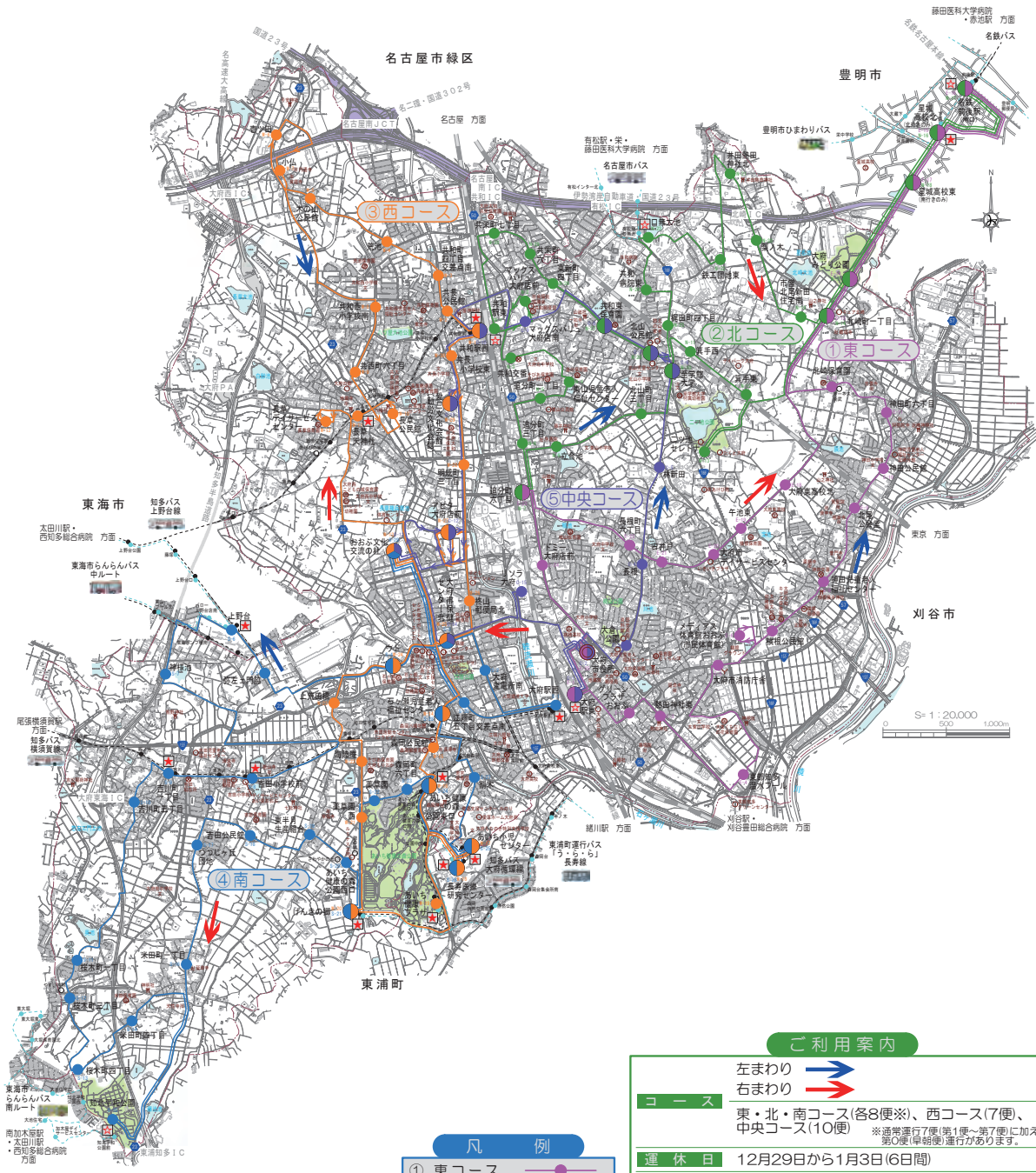


図表1-4 年齢3区分別人口の推移（出典:国勢調査）



※複数回答あり（3つまで）

図表1-5 住みやすくするための必要な取組（出典:H29市民アンケート）



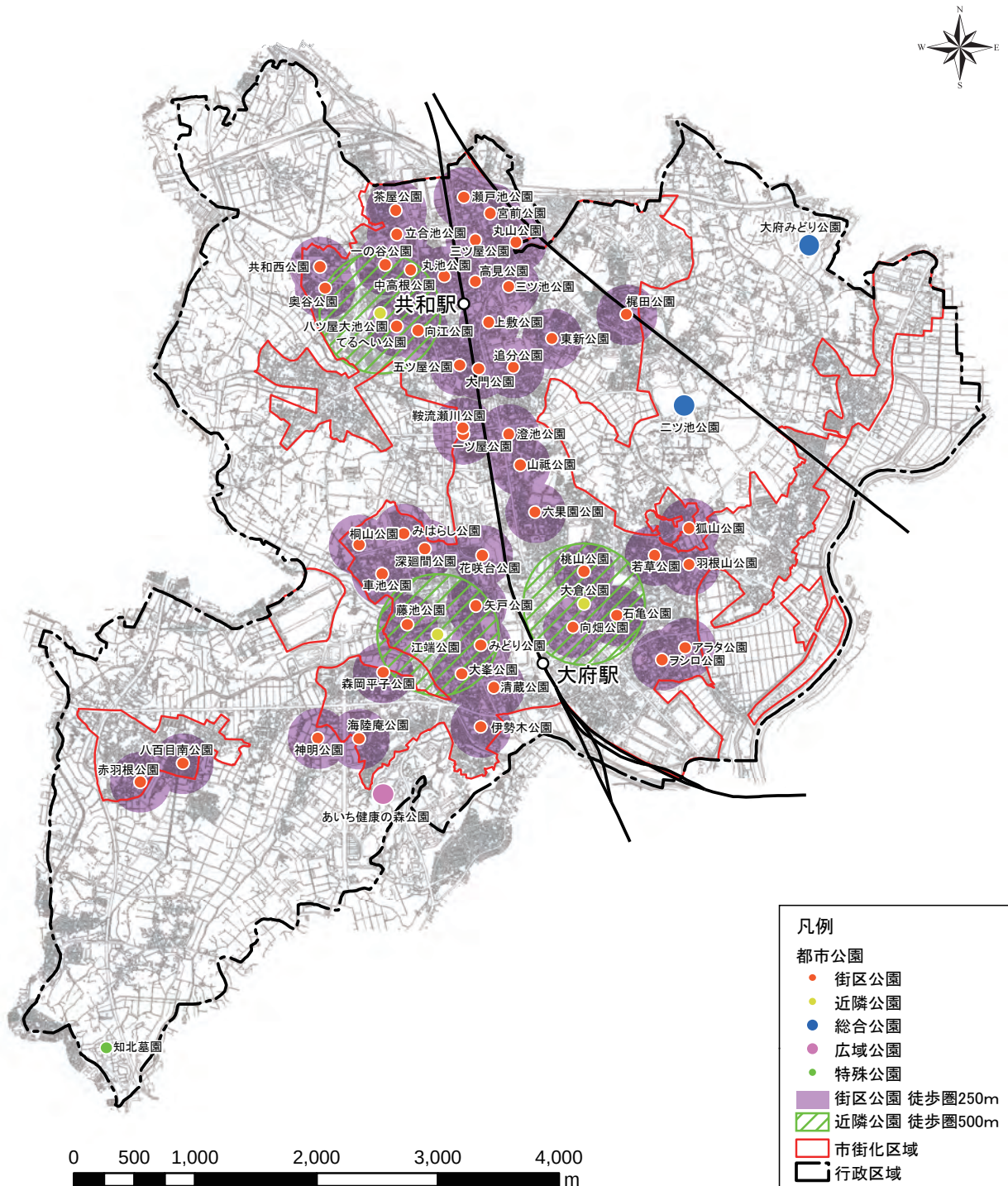
- 凡 例**
- ① 東コース
 - ② 北コース
 - ③ 西コース
 - ④ 南コース
 - ⑤ 中央コース
 - 民間路線バス
 - 他市町バス
 - ＜民間路線バス・他市町バス乗り換え情報＞
 - バス停は隣にあります
 - バス停は少し離れています
 - 運賃・時刻等は各機関へお問い合わせください。
 - （お問い合わせ先は裏面をご覧ください。）

ご利用案内	
左まわり	→
右まわり	→
コース	東・北・南コース(各8便※)、西コース(7便)、中央コース(10便) ※通常運行7便(第1便～第7便)に加え、第8便(早朝便)運行があります。
運休日	12月29日から1月3日(6日間)
運賃	1乗車(1コース)100円・運賃先払い バス乗車時に、運転手脇にある運賃箱にお支払いください。 ※回数券、定期券はありません。
料金無料の方	① 小学生以下 ② 中学生で生徒手帳を運転手に提示した方 ③ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳を運転手に提示した方とその介助者(手帳提示の方1名につき介助者1名まで) ④ 70歳以上の方で「ふれあいバス70」を運転手に提示した方 ⑤ 当日限り有効の乗継券を運転手に提示して運賃箱に入れた方
大府駅・共和駅または複数コースが停まるバス停で、他のコースへの乗り継ぎをご希望の方は、当日に限り有効の乗継券を発行しますので、運転手に申し付けください。	

図表1-6 ふれあいバス路線図 (出典:大府市資料R元年9月2日現在)

課題 健康増進に寄与する身近な公園や広場などの環境整備・維持【弱みを克服する】

- 市全体としては都市公園の整備水準は国の定める標準値を概ね満たしている一方、市街地内の都市公園の配置には偏りがあります。
- 市街地の外では農地や樹林地などの緑地が残っています。



図表1-7 都市公園の分布状況（出典：大府市資料H31年3月現在）

■ 安心・安全の都市づくり

課 題	日常的な生活の支えになる、バランスよく立地した都市機能(日常生活利便施設)の維持・充実
課 題	高齢者・障がい者・子育て世代をはじめ誰もが 便利に日常生活サービスを享受できる生活圏の形成 【強みを伸ばす】

- 市街化区域とその外縁部に当たる地域では、買い物などの日常生活の利便や医療・福祉・子育て施設などの安心を支える都市機能が概ね徒歩で利用できる範囲に分布しており、高齢者・子育て世代をはじめ誰もが暮らしやすい市街地の形成が進んでいます。(再掲)

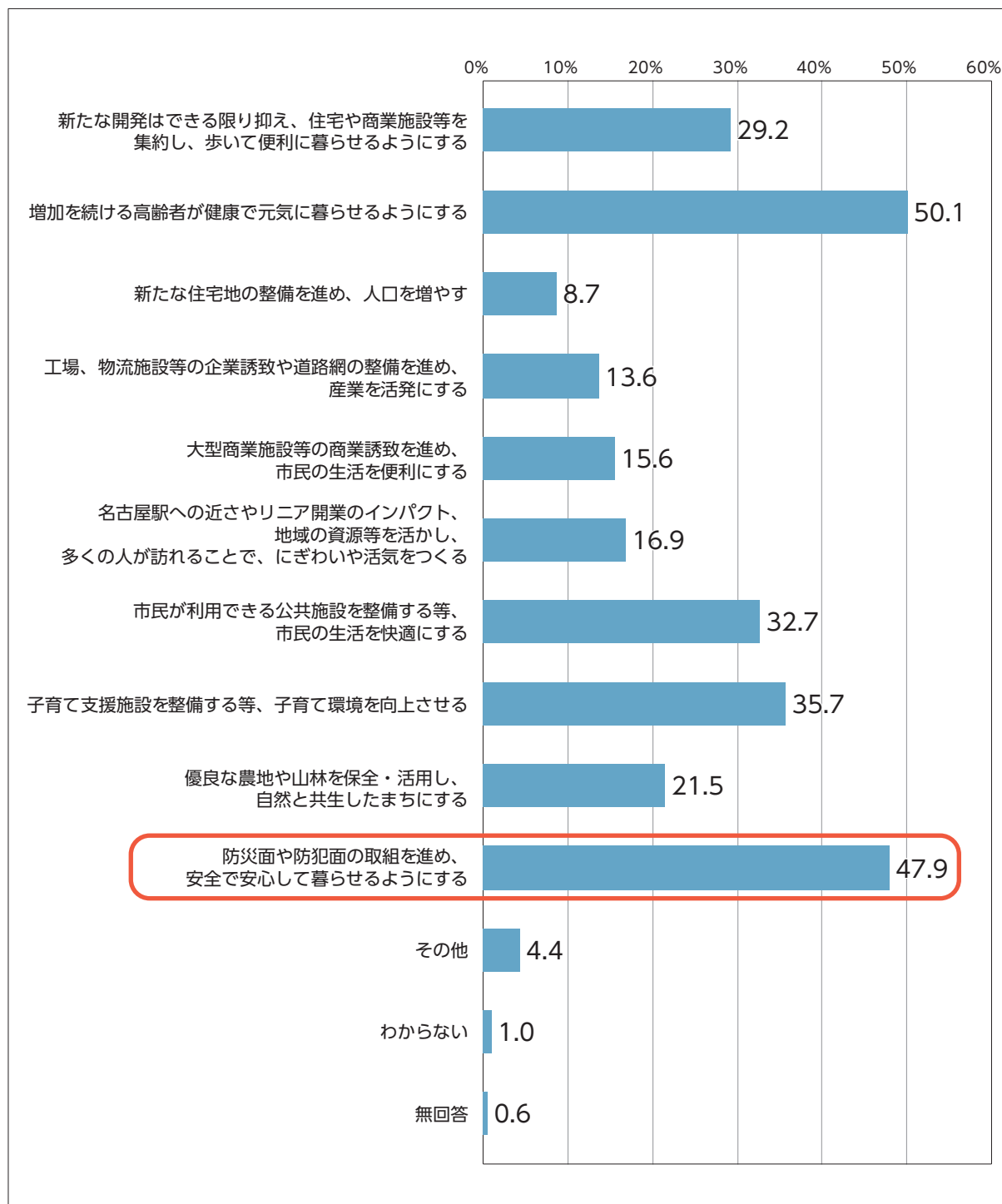


図表1-8 都市機能施設の分布状況(再掲)

課 題

安心・安全な暮らしの確保のための治安の維持・強化 【弱みを克服する】

- 市民アンケート調査では、今後力を入れるべきまちづくりとして、「防災面や防犯面の取組を進め、安全で安心して暮らせるようにする(47.9%)」が、「増加を続ける高齢者が健康で元気に暮らせるようにする(50.1%)」に次いで高い回答率となっています。



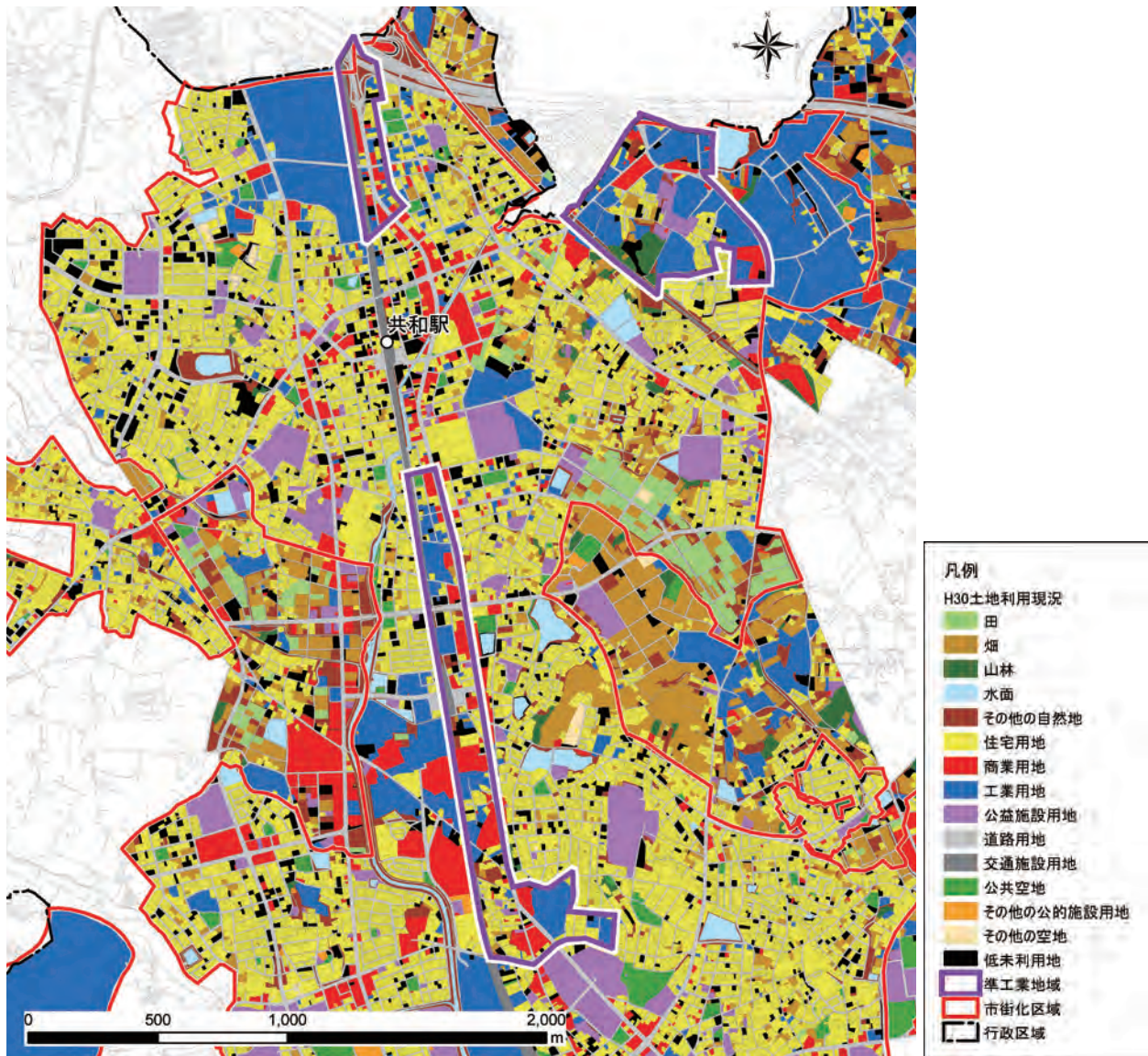
※複数回答あり（3つまで）

図表1-9 今後力を入れるべきまちづくり（出典:H29市民アンケート）

課 題

JR東海道本線沿線などにみられる住宅地と工業地の混在の解消 【弱みを克服する】

- JR東海道本線沿いの市街化区域内では準工業地域が指定されており、住宅地と工業地の混在がみられます。

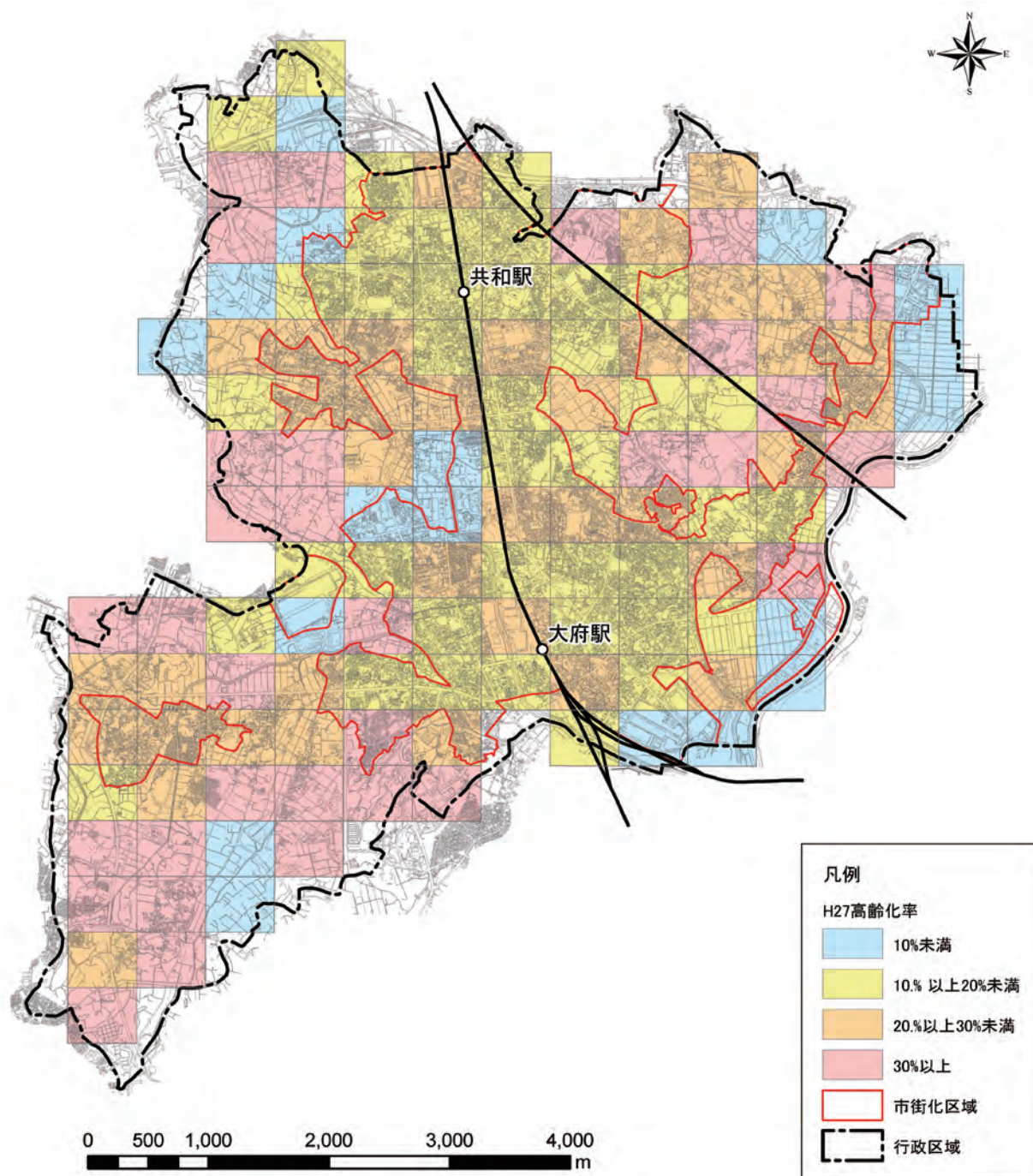


図表1-10 土地利用状況 (出典:H30愛知県都市計画基礎調査)

課 題

高齢化の進む集落などにおける地域コミュニティの再生・活性化
(日常生活に必要な機能や居住の受け皿の確保、
交流・地域活動を促進する場の形成) 【弱みを克服する】

- 高齢化率が高い地区は市街化調整区域の集落などに多くみられます。大府駅周辺でも高齢化率が高い状況がみられます。

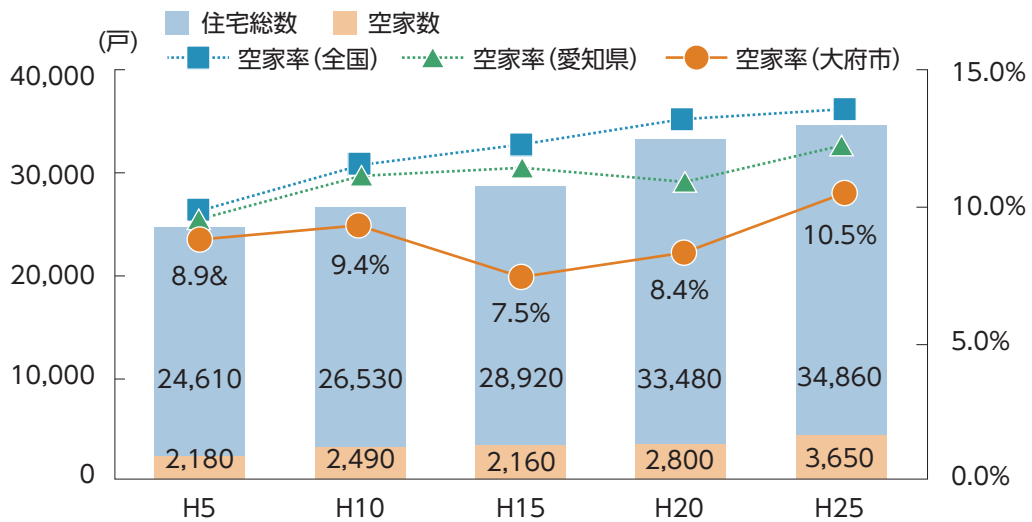


図表1-11 高齢化率の分布 (出典:H27国勢調査)

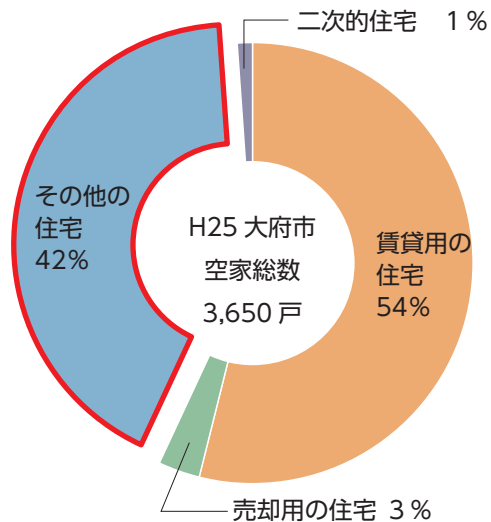
課 題

空家の発生抑制、適切な管理及び利活用の促進による 良好な住環境の形成【弱みを克服する】

- 空家数は増加傾向にあり、少子高齢化や核家族化などにより今後も増加する可能性があります。
- 空家のうち、利用されずに放置され、維持管理の面において問題を生じやすい『その他の住宅』が約4割となっています。



図表1-12 空家数などの推移 (資料:住宅・土地統計調査)

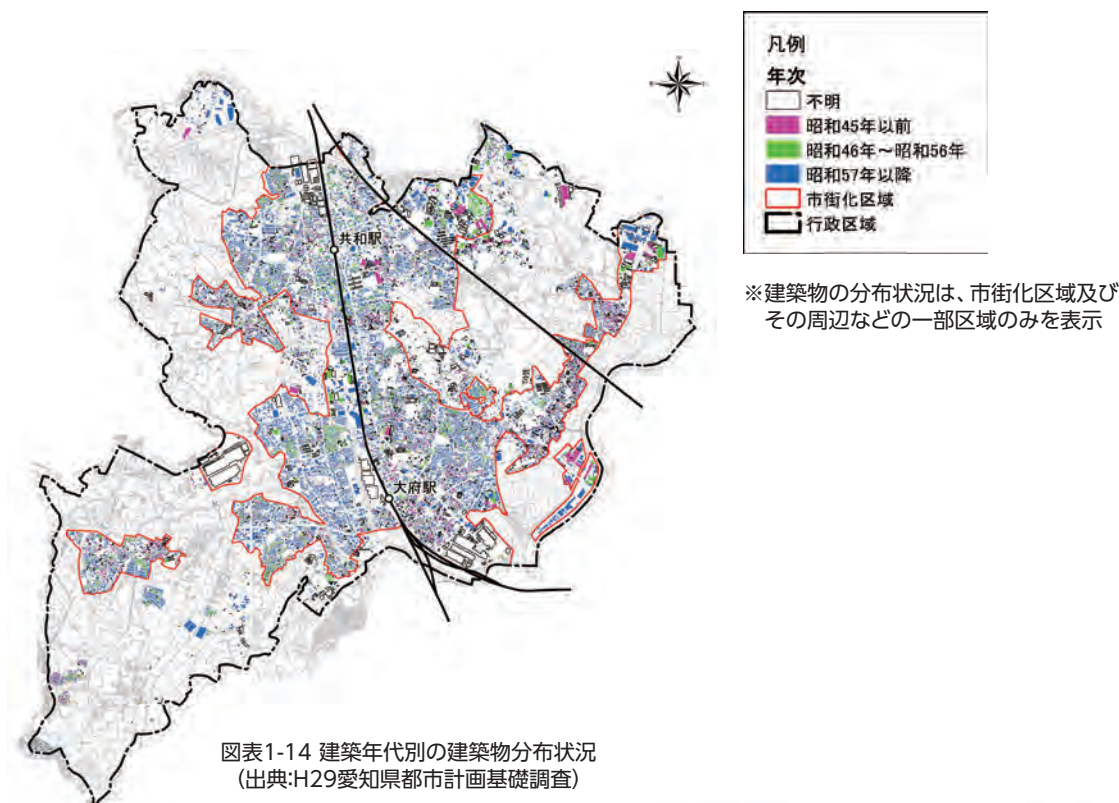


図表1-13 空家の種類別割合 (資料:住宅・土地統計調査)

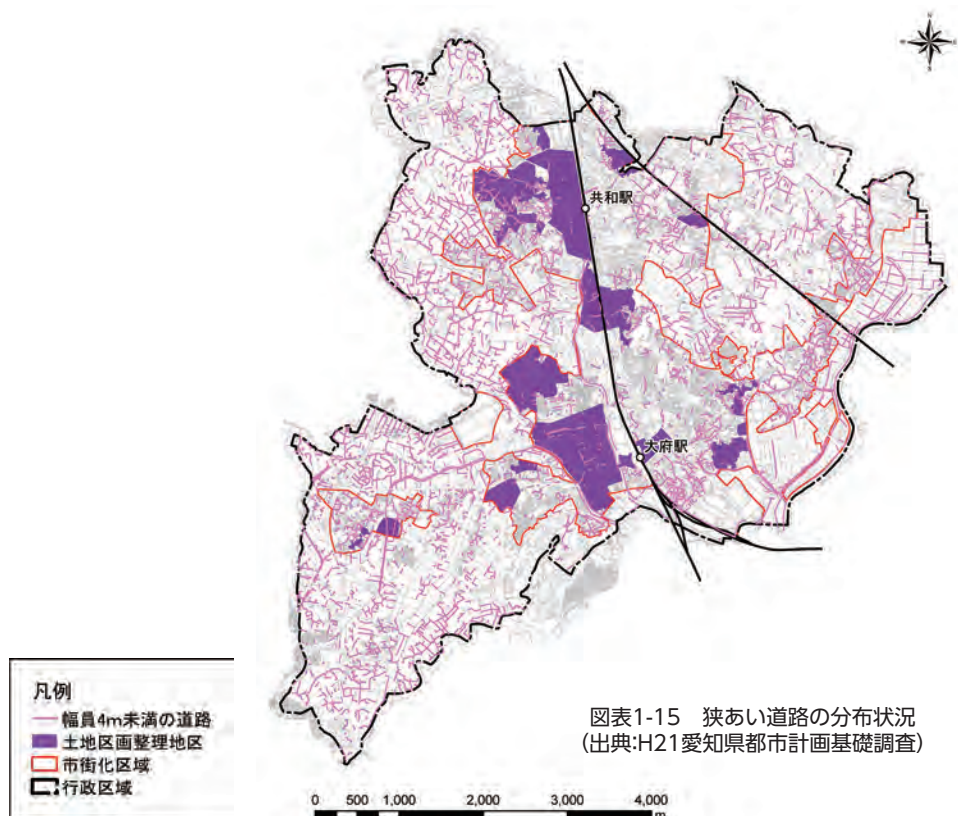
課題

市街地に残る未整備地区や狭あい道路の解消などによる
都市の防災性の強化【弱みを克服する】

- 昭和56年に耐震基準が改正されており、それ以前に建築された建築物は現在の耐震基準を満たさない可能性があります。耐震基準改正前に建築された建築物は、少なくとも約30%以上あり、それらは市街化区域の各地に分散していますが、特に大府、共和駅周辺において多くみられます。
- 市街化調整区域や土地区画整理事業が行われていない市街化区域において幅員4m未満の狭あい道路が広範囲にみられます。



図表1-14 建築年代別の建築物分布状況
(出典:H29愛知県都市計画基礎調査)

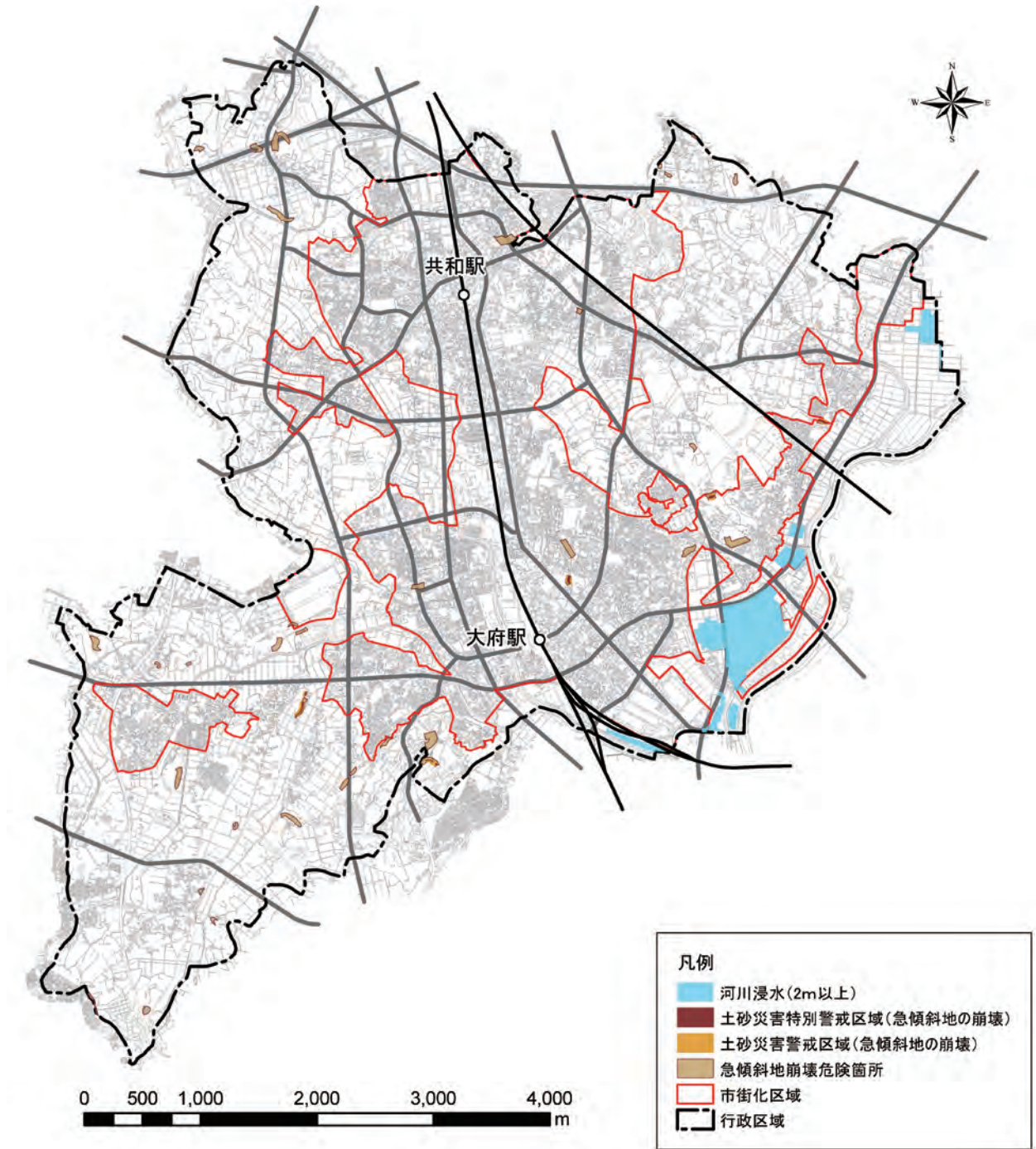


図表1-15 狭あい道路の分布状況
(出典:H21愛知県都市計画基礎調査)

課 題

浸水などの自然災害の危険性の高い区域における 防災、減災対策の実施及び開発抑制 【弱みを克服する】

- 河川沿いの一部の地域においては、過去に浸水が生じています。また、各地で局地的な大雨が発生する中、更なる浸水対策が求められています。
- 丘陵地の一部の崖は、崩壊の危険のある急傾斜地として指定を受けています。



河川浸水:概ね100年に1回程度起こる大雨が降ったことにより、境川及び逢妻川がはん濫した場合に想定される浸水の状況を、内水はん濫を考慮して、シミュレーションにより求めたもの

図表1-16 災害危険箇所 (出典:H24国土数値情報)

課 題

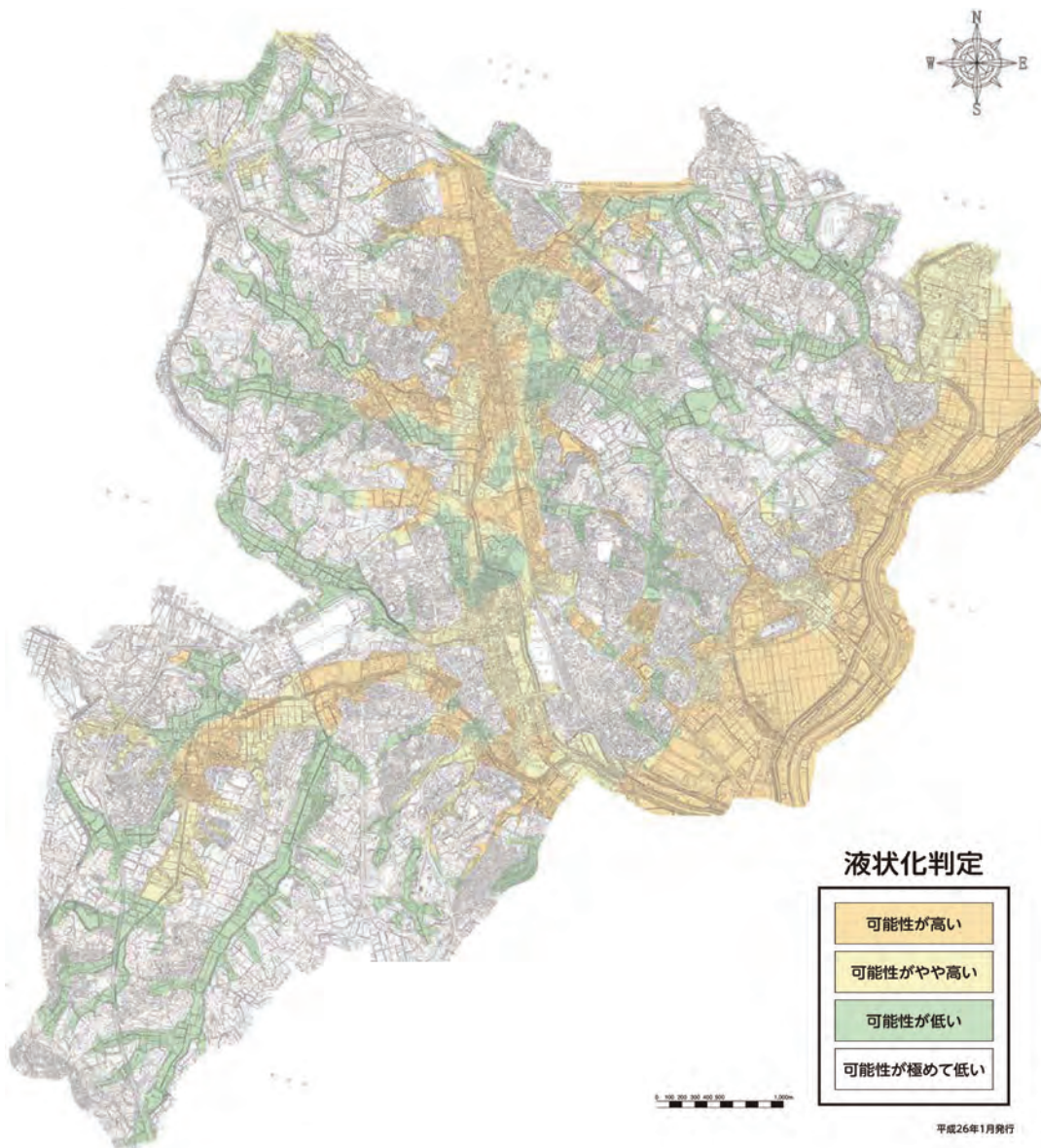
発生が懸念される大規模な地震などの災害に対応する
インフラ機能の強化 【弱みを克服する】

- 東海・東南海地震により、本市では震度6弱以上の強い揺れが想定され、建物の全壊は約900棟、火災消失は約300棟、死者は約40人と予測されており、民間住宅や公共施設の耐震対策やインフラ施設などの防災対策の充実が求められています。

図表1-17 H25愛知県調査による東海・東南海地震の被害想定
(出典:愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果)

		被害予測
想定震度		6強
建物被害	全壊	約900棟
	火災焼失	約300棟
	液状化倒壊	被害わずか
死者数		約40人

※予測は1707年に発生した宝永地震を基に、南海トラフで過去に発生した地震の揺れや津波高などの値を重ね合わせて作られた過去地震最大モデルによるもの



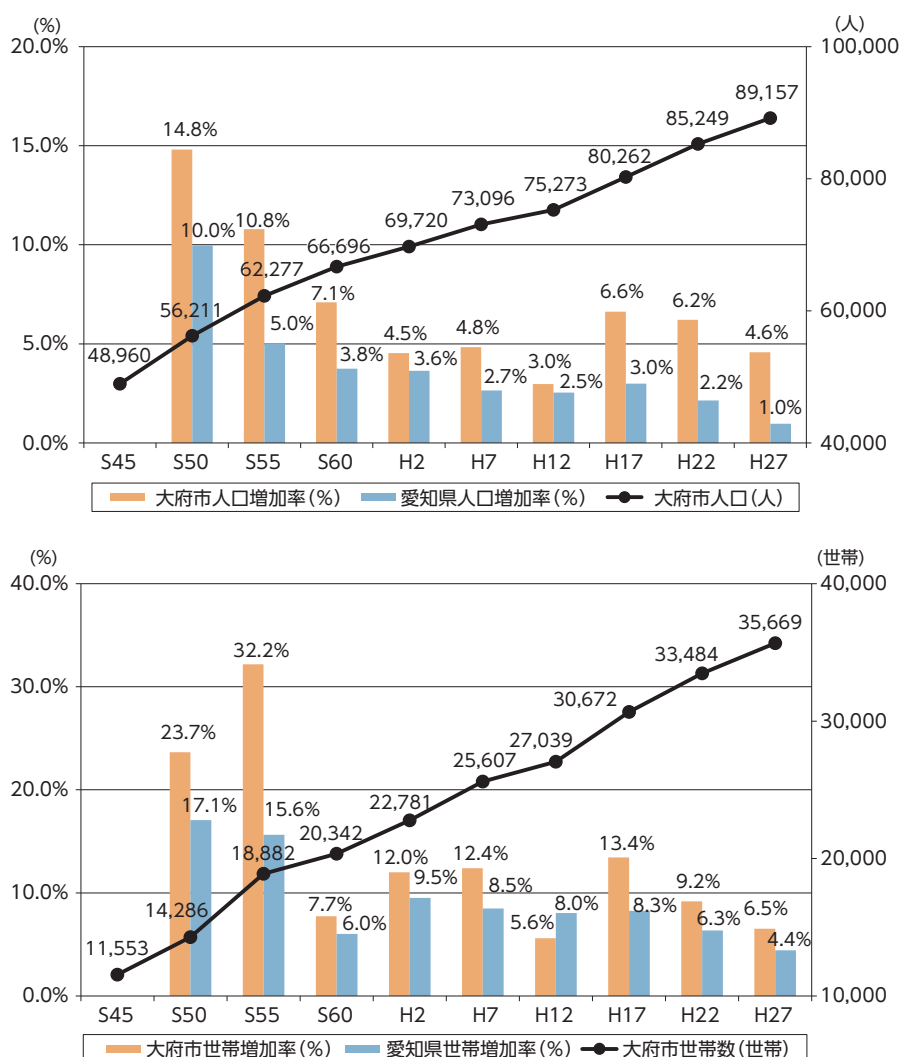
図表1-18 東海・東南海地震による地盤の液状化の想定 (出典:大府市災害マップ)

(2) 都市構造

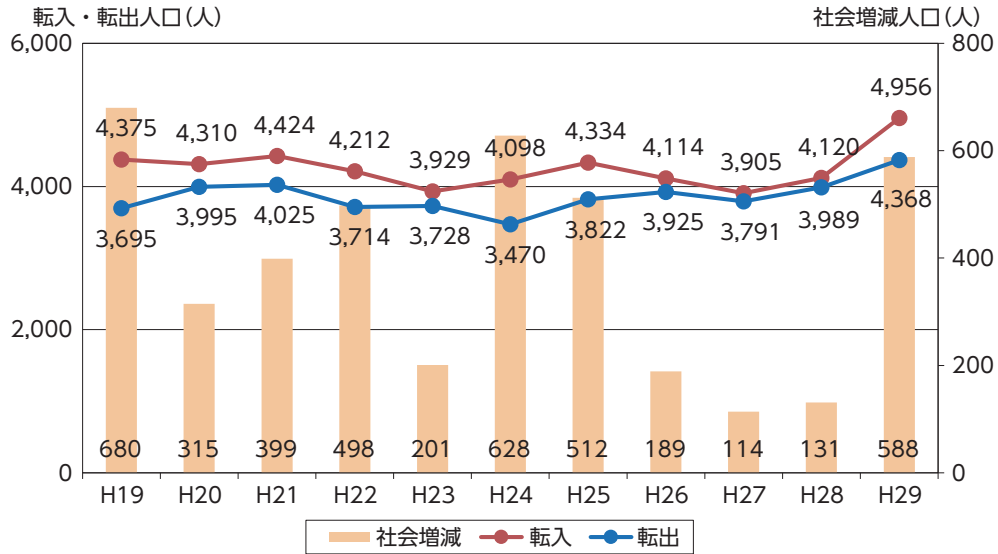
■ 都市機能集積の高い都市づくり

課 題	市街地人口密度の維持・上昇のため、概ね徒歩圏内に分布する都市機能(日常生活利便施設)の維持・充実
課 題	今後の人口増加に向け、これまでの社会増(転入増)を維持【強みを伸ばす】

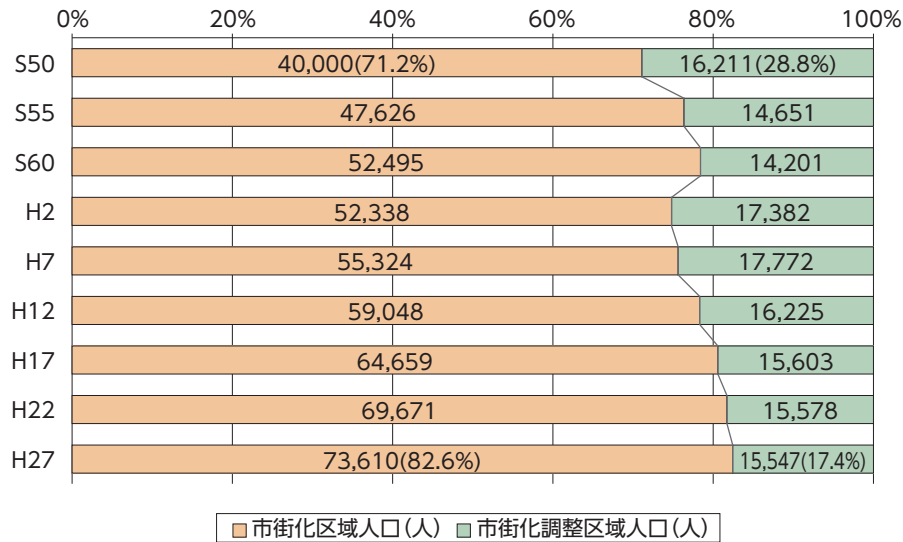
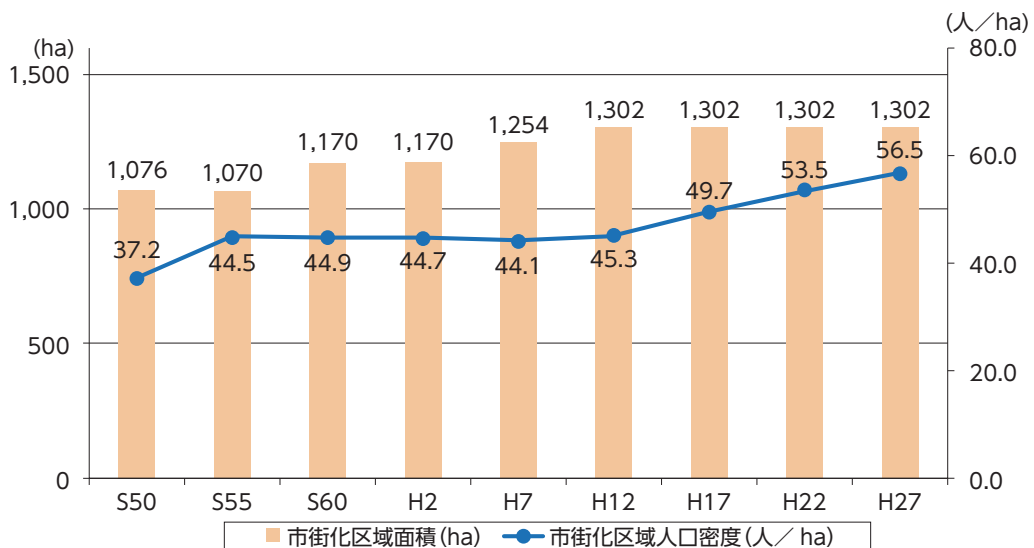
- 昭和45年以降、本市の人口及び世帯数はともに増加を続けています。
- 近年、社会増加数は縮小の傾向にあったものの、平成19年以降、転入人口が転出人口を常に上回り、回復の兆しがみられます。
- 総人口に占める市街化区域人口の割合は平成27年時点では82.6%となっています。市街化区域の人口密度は、平成2年の44.7人/haから、平成27年には56.5人/haへと増加しています。
- DID(人口集中地区)人口密度は平成2年以降上昇に転じ、平成27年時点では59.9人/haとなっており、DID(人口集中地区)基準の40人/haを大きく上回っています。
- 外国人の人口及び世帯数は平成26年以降増加しています。
- 市街化区域とその外縁部に当たる地域では、買い物などの日常生活の利便や医療・福祉・子育て施設などの安心を支える都市機能が概ね徒歩で利用できる範囲に分布しており、高齢者・子育て世代をはじめ誰もが暮らしやすい市街地の形成が進んでいます。(再掲)

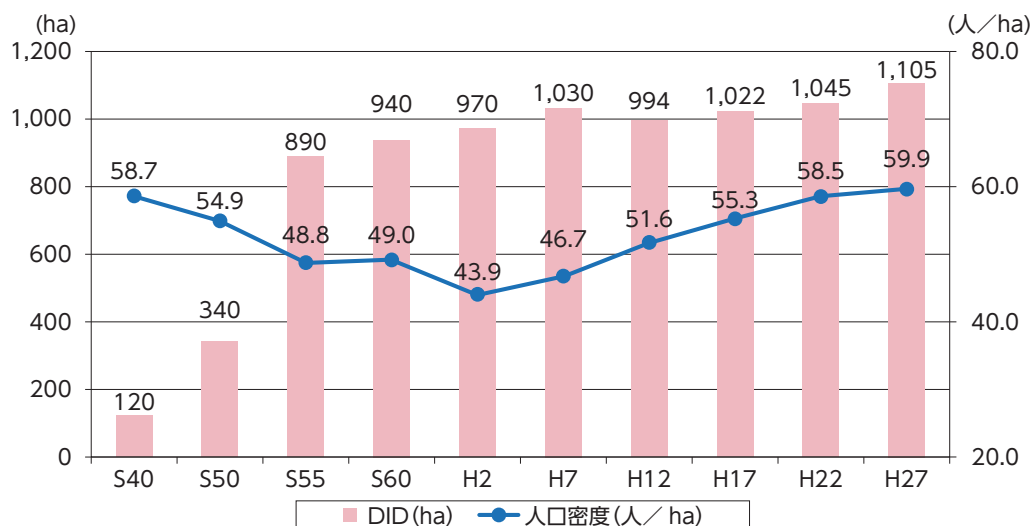


図表1-19 人口と世帯数の推移(出典:国勢調査)

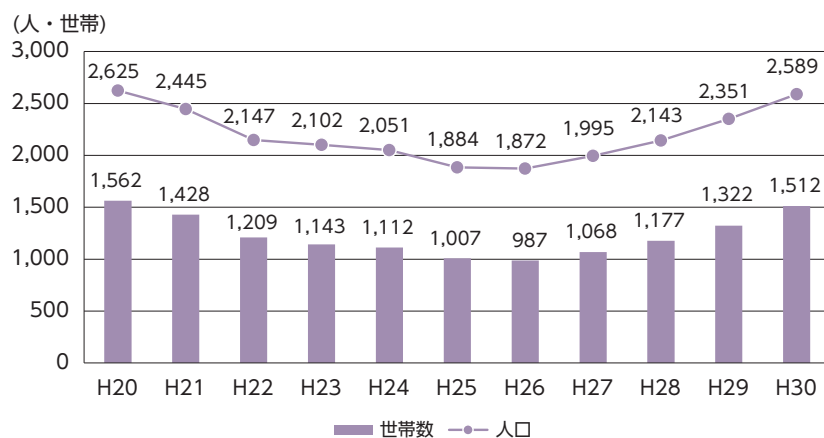


図表1-20 社会増減の推移(出典:愛知県統計年鑑)

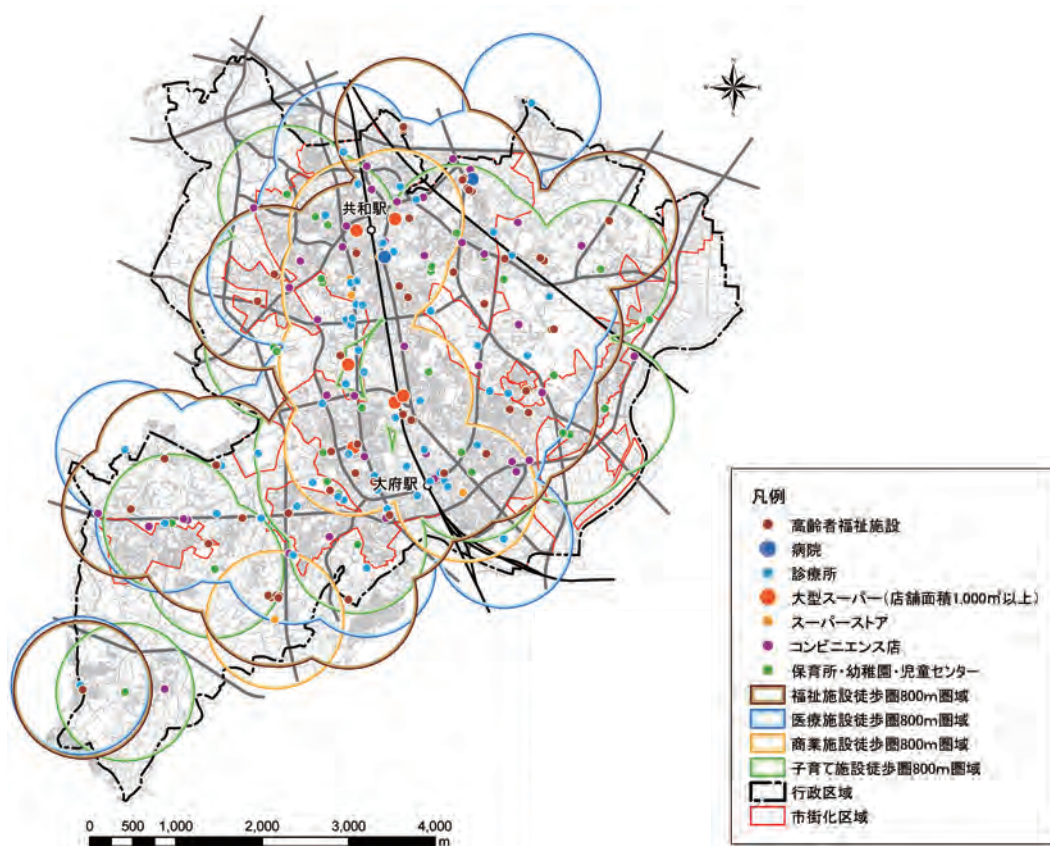
図表1-21 市街化区域と市街化調整区域の人口内訳の推移
(出典:愛知県都市計画基礎調査)図表1-22 市街化区域面積と人口密度の推移
(出典:愛知県都市計画基礎調査)



図表1-23 DID(人口集中地区)面積と人口密度の推移(出典:国勢調査)



図表1-24 外国人の人口と世帯数の推移(出典:おおぶの統計)

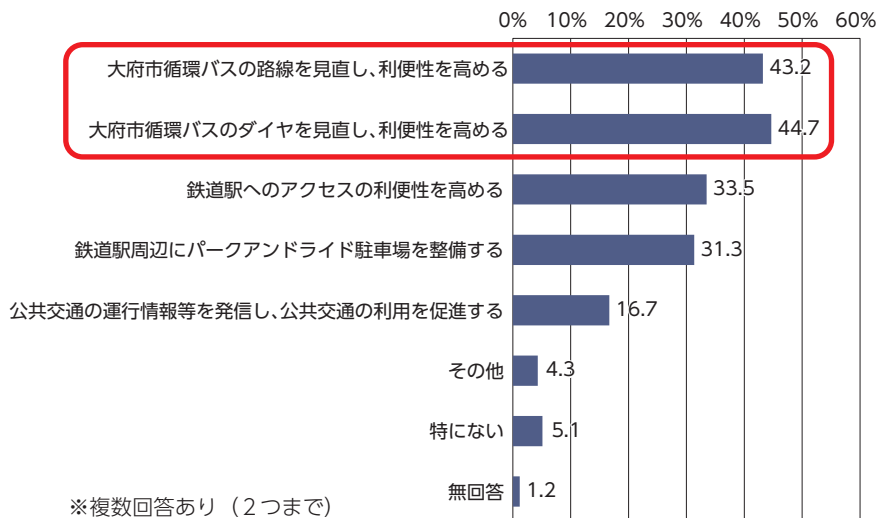


図表1-25 都市機能施設の分布状況(再掲)

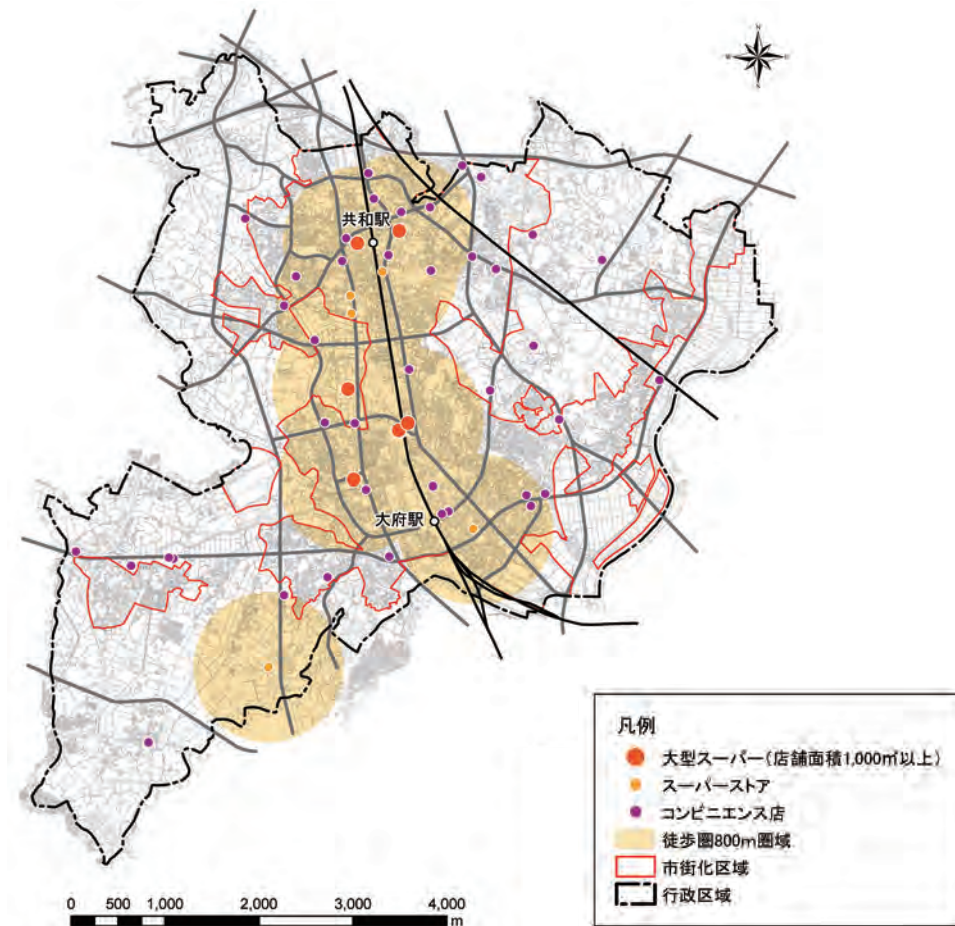
課題

車を運転できない・持たない人でも容易に都市機能にアクセスできるような公共交通網の維持とサービス水準の強化【弱みを克服する】

- 市民アンケート調査では、大府市循環バスの運行により、買い物や通院などへ行くことのできる体制はあるものの、移動手段確保のために必要な取組として、「大府市循環バスのダイヤを見直し、利便性を高める(44.7%)」が最も高く、次いで「大府市循環バスの路線を見直し、利便性を高める(43.2%)」が高い回答率となっています。
- 最寄り小売店舗は市内各地域に分布していますが、小規模なコンビニエンスストアを除くと、市街化区域でも小売店舗の徒歩圏に含まれない地域がみられます。



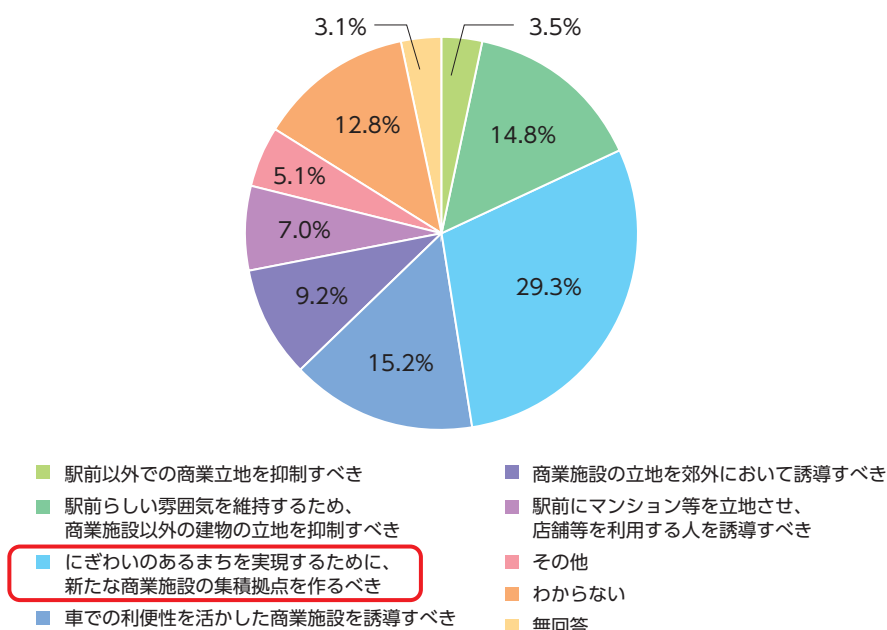
図表1-26 移動手段確保のために必要な取組や整備に関する回答（出典:H29市民アンケート）



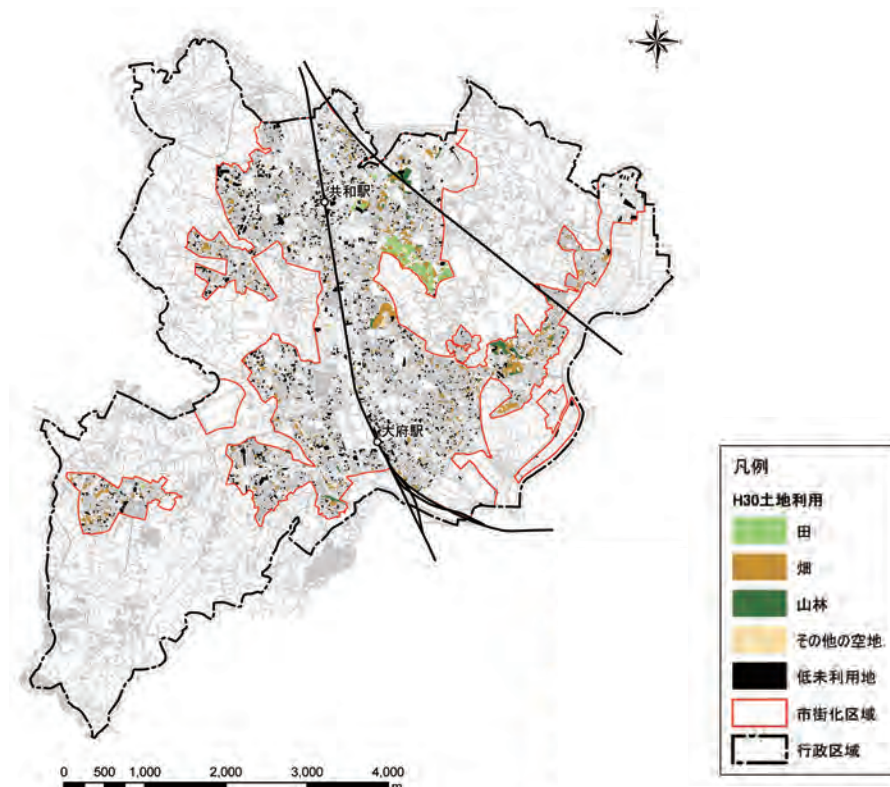
図表1-27 商業施設の分布状況

課 題	大府駅、共和駅周辺における居住や商業をはじめとする都市機能の集積強化
課 題	増加する人口を受け止める新たな住居系市街地の形成 【弱みを克服する】

- 当面、人口増加が予測されるなか、市街化区域内にまとまりのある低未利用地が少ないため、住宅地の拡大が必要です。
- 商業系用途地域において、店舗など商業系の土地利用は低く、特に大府・共和両駅の周辺における商業集積の低さがみられます。
- 市民アンケート調査では、駅前商業地のあり方として、「にぎわいのあるまちを実現するために、新たな商業施設の集積拠点を作るべき(29.3%)」が最も高い回答率となっています。



図表1-28 駅前商業地のあり方に関する回答 (出典:H29市民アンケート)



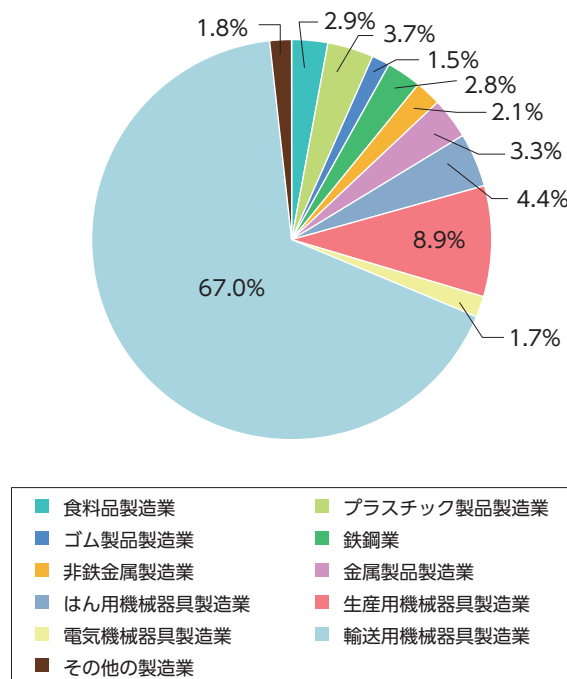
図表1-29 都市的低未利用地の分布状況 (出典:H30愛知県都市計画基礎調査)

(3) 都市活力

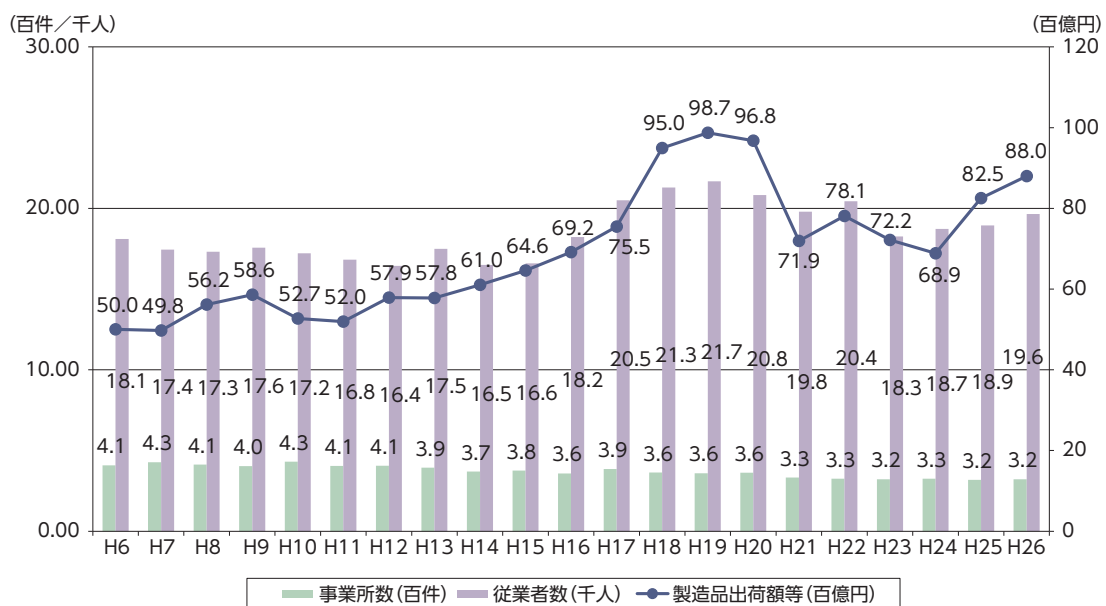
■ 力強く発展を続ける都市づくり

課 題	広域的な交通利便性を生かした工業・物流機能の集積強化
課 題	名古屋への近接性とリニアインパクト(首都圏との時間距離の短縮)による産業の活性化【強みを伸ばす】

- 本市の製造品出荷額等は、自動車関連の製造業が中心となり、平成24年以降、年々増加を続けています。
- 伊勢湾岸道路、国道23号、名古屋環状2号線など中部圏の主要道路が集約された交通の要衝となっています。
- 大都市名古屋にアクセスしやすく、交通利便性に優れるといった地理的優位性を有しています。



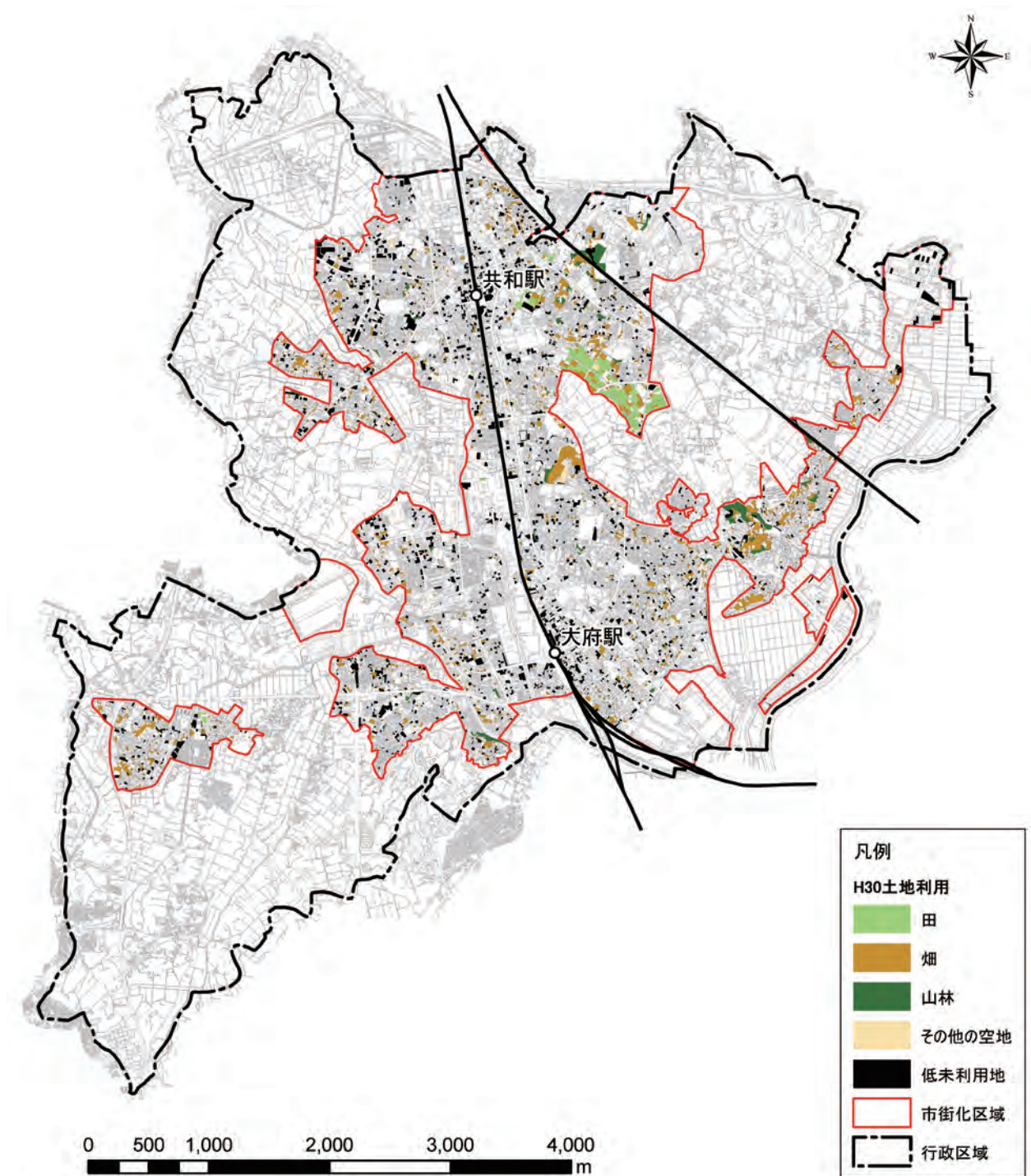
図表1-30 種別出荷額の割合 (出典:H26工業統計調査)



図表1-31 事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移
(出典:工業統計調査、ただしH23は経済センサス)

課 題 今後の産業立地の受け皿となる新たな産業系市街地の形成 【弱みを克服する】

- 産業立地の需要が高まるなか、市街化区域内にまとまりのある低未利用地が少ないため、産業地の拡大が必要です。

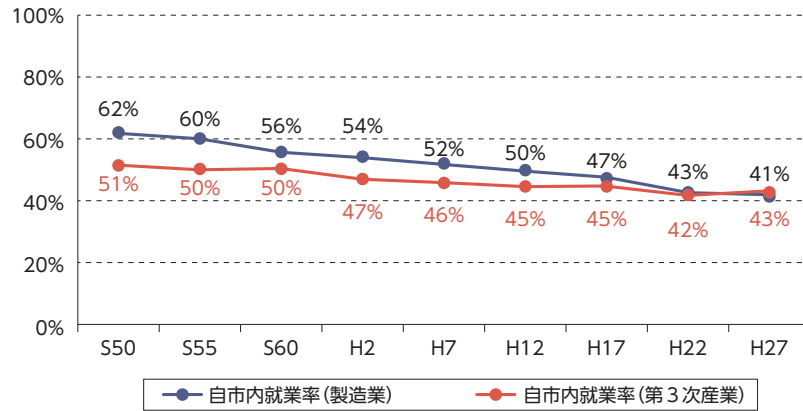


図表1-32 都市的低未利用地の分布状況(再掲)

課 題

製造業を中心とした雇用の場の確保とあわせた居住の場の充実
【弱みを克服する】

- 市内に居住しながら市内で働く自市内就業率は低下を続けており、製造業においても自市内就業率の低下傾向がみられます。



図表1-33 自市内就業率の推移(出典:国勢調査)

第1章

現状と課題の整理

第2章

将来都市像・
都市づくりの目標

第3章

土地利用の方針

第4章

都市整備の方針

第5章

地域別構想

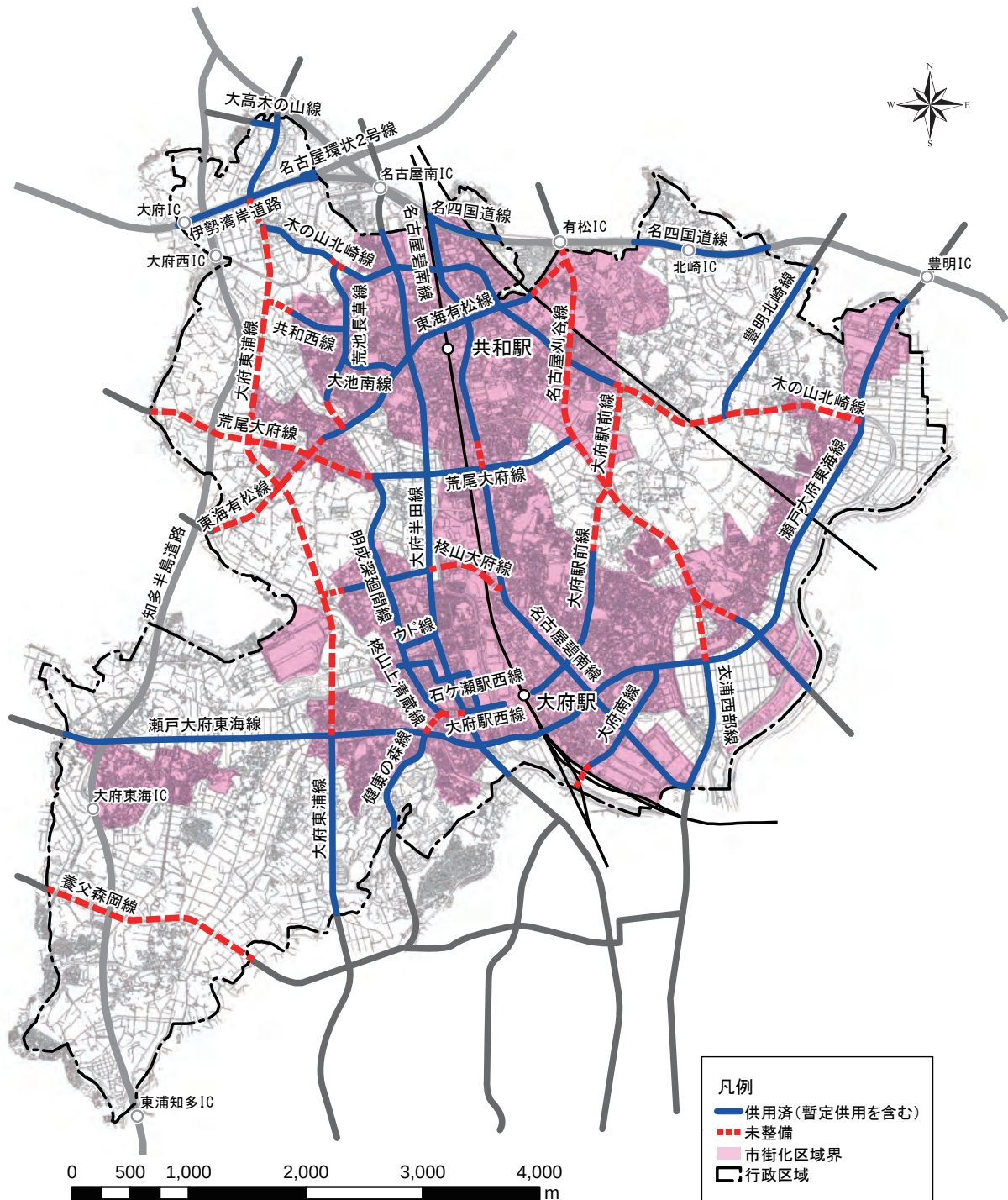
第6章

計画の実現に向けて

課題

都市の骨格となる幹線道路の整備による移動の円滑化と
周辺土地利用の転換(未整備幹線道路の整備促進や代替路線の確保、
土地利用の転換方策の検討)【弱みを克服する】

- 南北の軸となる(都)名古屋刈谷線、(都)大府東浦線などの路線が未整備となっています。
- 幹線道路の整備により、道路周辺での土地利用の転換が見込まれます。



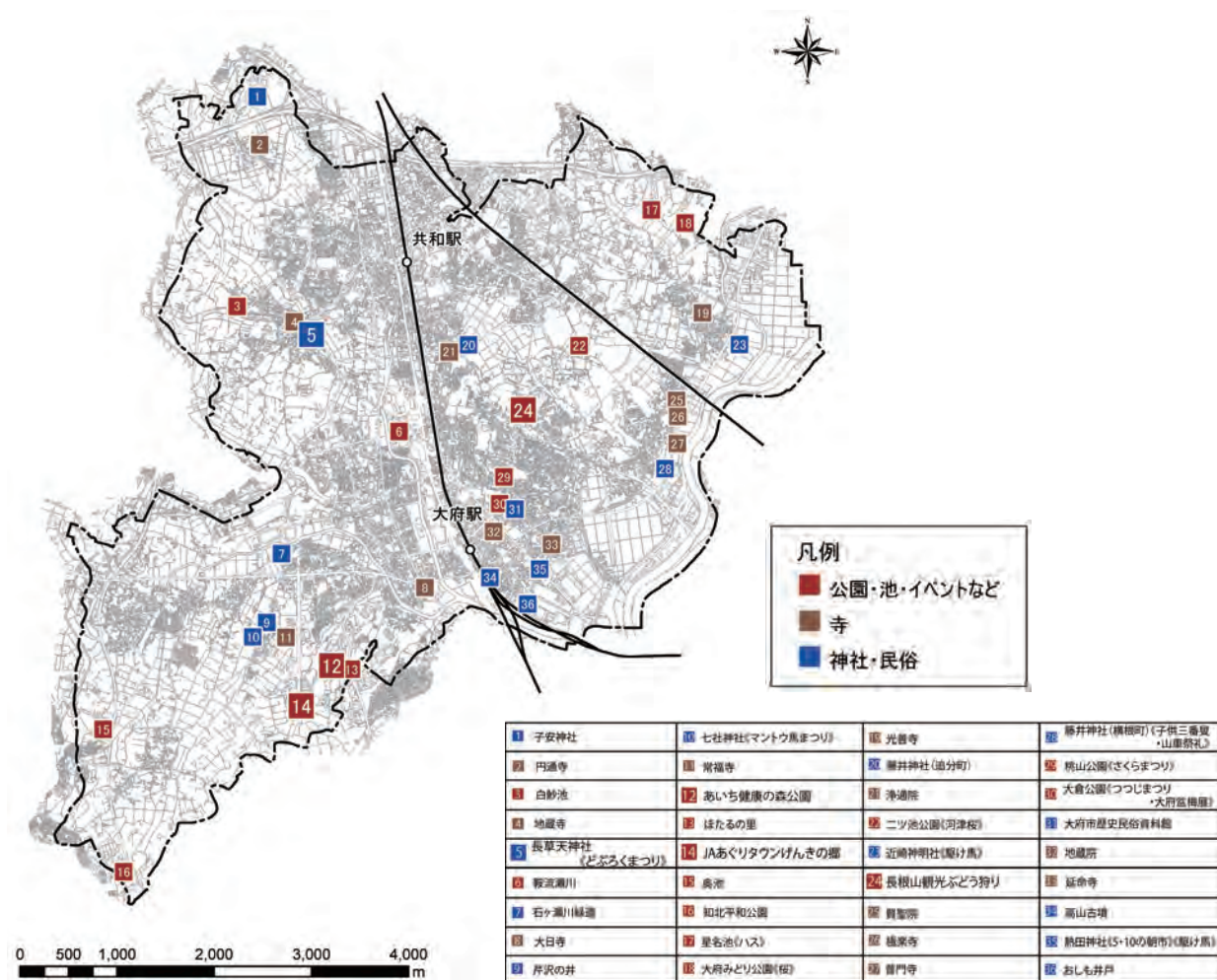
図表1-34 都市計画道路の整備状況 (出典:大府市資料H31年3月現在)

■ にぎわいのある都市づくり

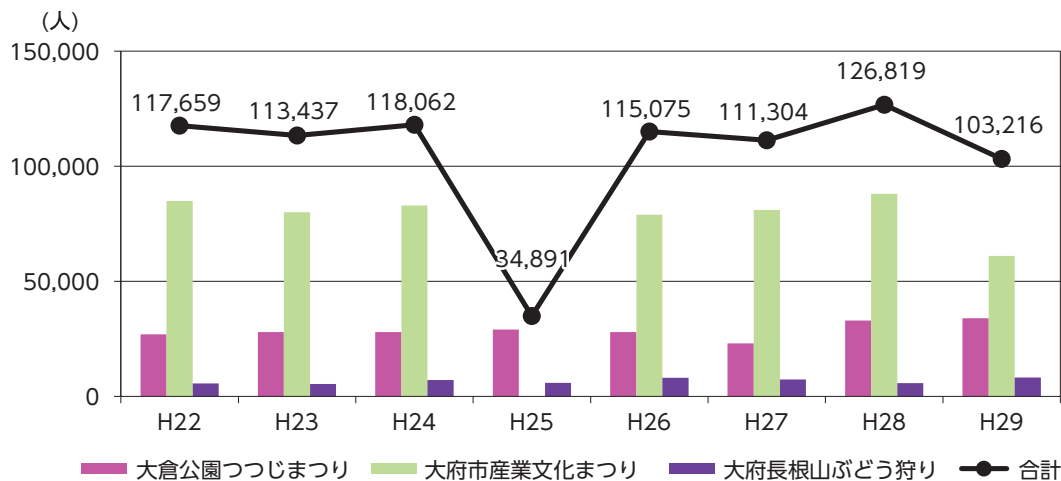
課題

既存ストックを生かした交流人口の拡大 【強みを伸ばす】

- 本市の代表的な観光資源として、大府市産業文化まつり、大倉公園つつじまつり、大府長根山ぶどう狩りが挙げられ、市民の交流の場として定着しています。
- 広域公園のあいち健康の森公園が市南部に整備され、周辺にはげんきの郷などの施設があり、多くの人が訪れています。



図表1-35 地域資源の分布状況 (出典:大府観光ガイド(大府市資料))

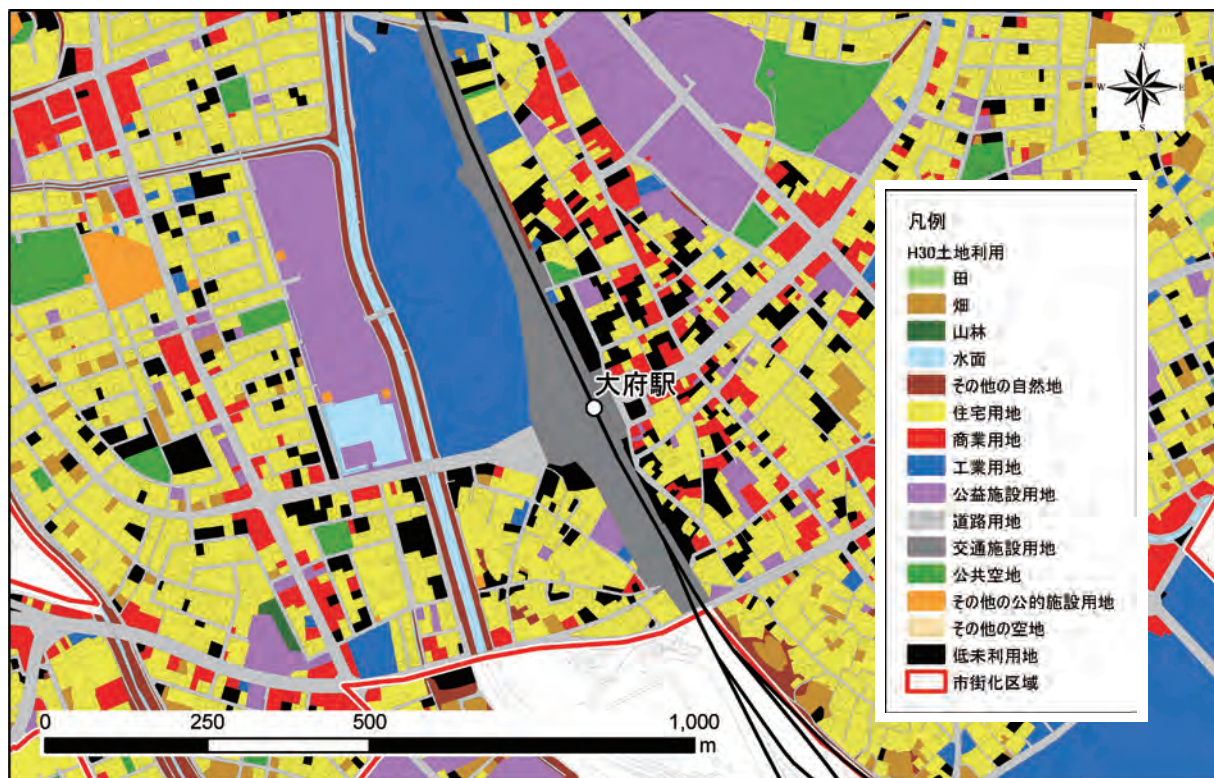


※平成25年度の「大府市産業文化まつり」は台風のため中止

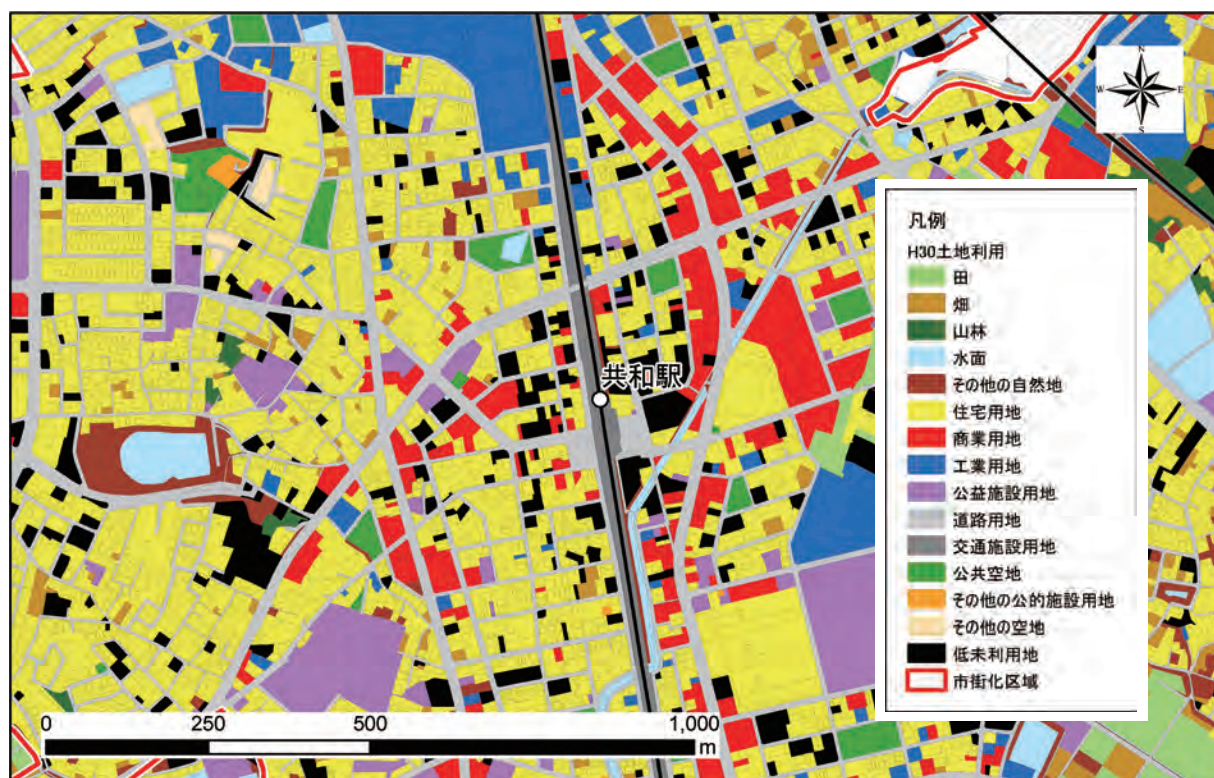
図表1-36 観光入込客数の動向 (出典:観光レクリエーション利用者統計、大府市資料)

課 題	商業・業務機能や医療・福祉機能をはじめとする第3次産業の集積強化
課 題	大府駅、共和駅周辺での集客力を高め、多様な交流を育む場の形成 【弱みを克服する】

- 商業系用途地域において、店舗など商業系の土地利用は低く、特に大府・共和両駅の周辺における商業集積の低さがみられます。(再掲)



図表1-37 大府駅周辺の土地利用現況 (出典:H30愛知県都市計画基礎調査)



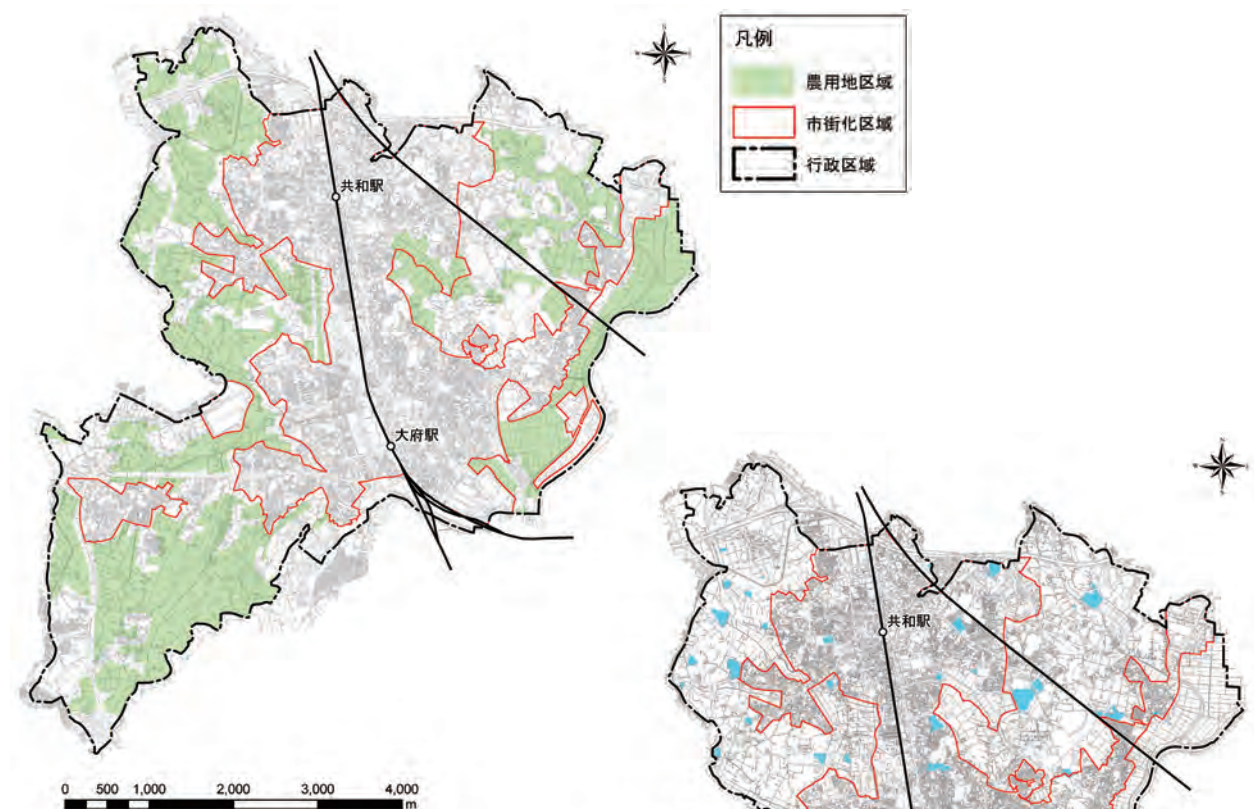
図表1-38 共和駅周辺の土地利用現況 (出典:H30愛知県都市計画基礎調査)

(4) 都市環境

■ まちの魅力を創出する都市づくり

課 題	地域特有の歴史的資源や自然的な景観資源の活用、緑化推進、 建物の色彩に対する配慮などによる身近な景観づくり
課 題	地区計画制度の活用などによる良好なまちなみの形成・維持
課 題	市街地にある緑地の保全・創出 【強みを伸ばす】

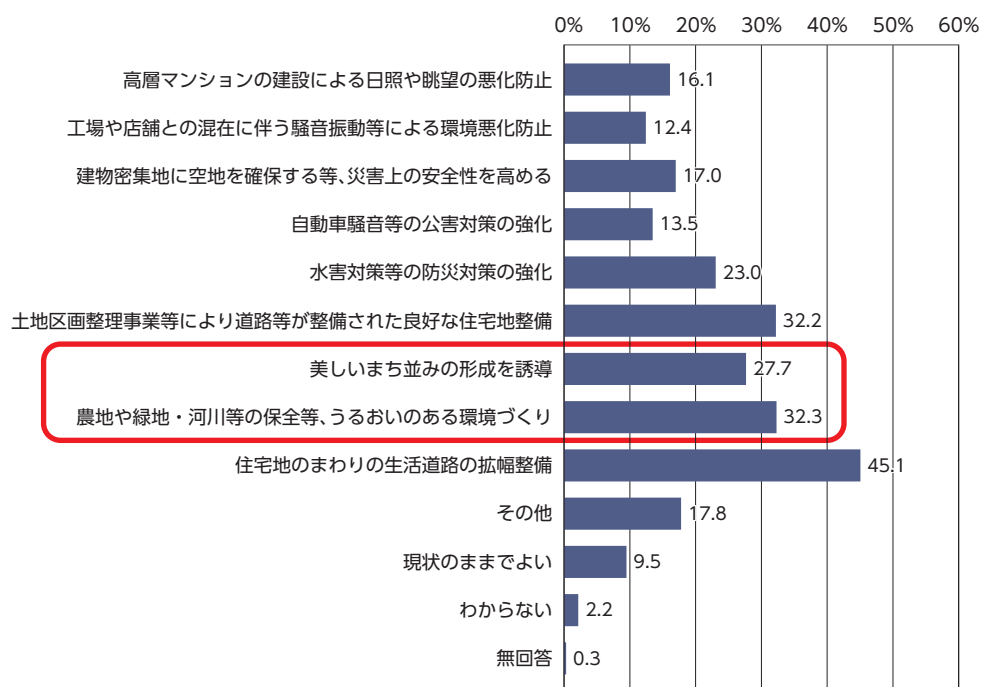
- 本市の市街化区域は主にJR東海道本線に沿って大府駅・共和駅を中心にまとまって配置されており、その外縁部には農用地区域が広がり、調和が図られています。
- あいち健康の森公園・大府みどり公園・二ツ池公園などの大規模な公園が整備されています。
- 多様で身近に親しむことのできる水辺空間である河川やため池が多く分布しています。
- 大倉公園には、国の登録有形文化財に指定された建造物があります。
- 市民アンケート調査では、住みやすくするための必要な取組として「農地や緑地・河川等の保全等、うるおいのある環境づくり(32.3%)」「美しいまち並みの形成を誘導(27.7%)」が高い回答率となっています。



図表1-39 農用地区域(出典:H27国土数値情報)



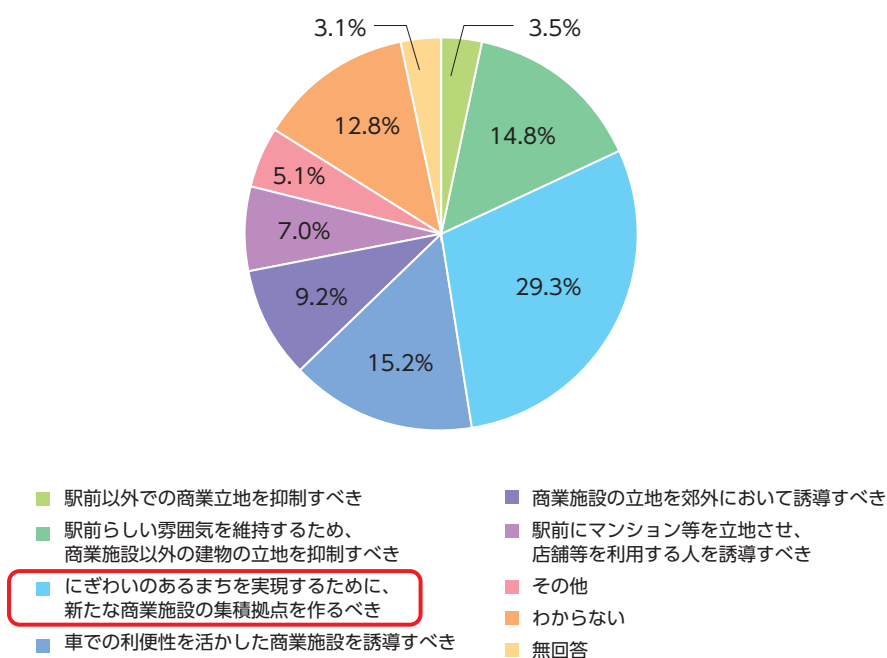
図表1-40 ため池の分布(出典:大府市資料)



図表1-41 住みやすくするための必要な取組に関する回答(出典:H29市民アンケート)

課題 大府駅、共和駅周辺におけるにぎわいの創出と都市景観の向上 【弱みを克服する】

- 大府駅及び共和駅周辺において商業集積が低い状況にあります。
- 市の玄関口である駅周辺のにぎわいづくりや美しいまち並みの形成が求められています。



図表1-42 駅前商業地の在り方に関する回答(再掲)

■ 環境負荷の小さい都市づくり

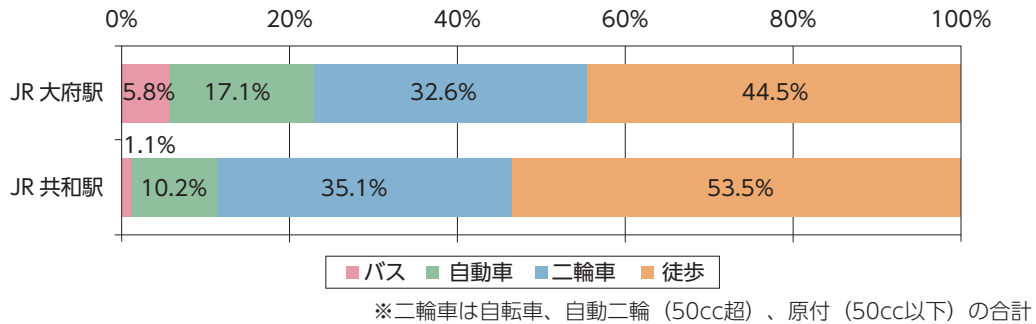
課題

鉄道駅へのアクセスを含め、快適な移動を提供する
歩行者・自転車ネットワークの形成・充実

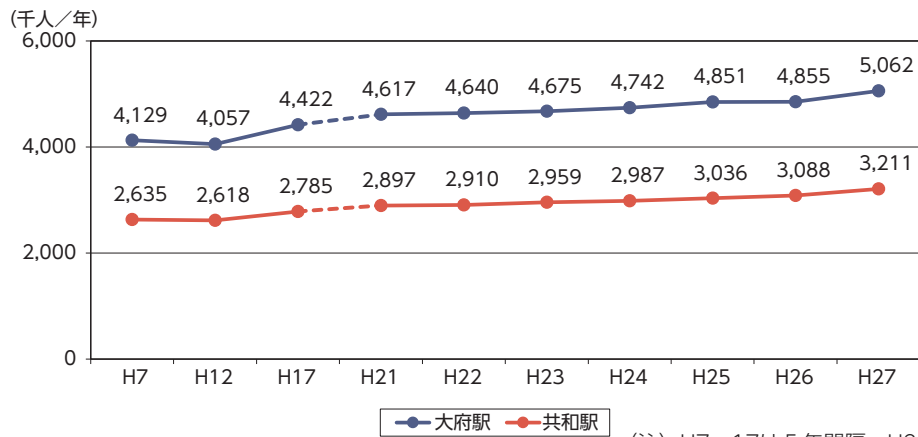
課題

パークアンドライドのための駐車場・自転車駐車場の整備など、
公共交通機関の利用促進 【強みを伸ばす】

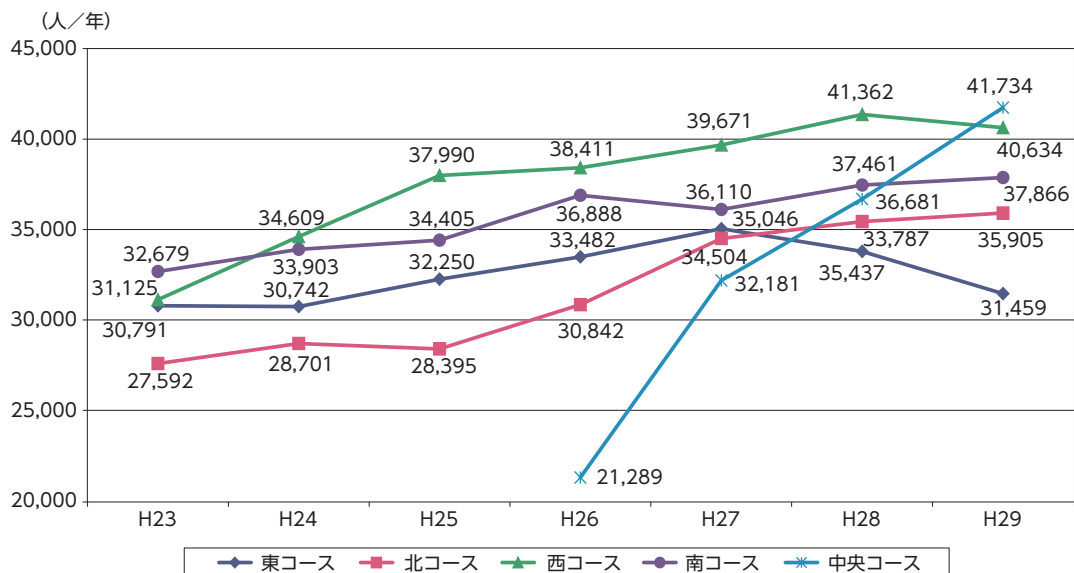
- JR東海道本線の2駅の利用者の約8割から9割は、二輪車もしくは徒歩を駅端末交通手段としています。
- 公共交通機関の利用者が増加しており、環境負荷の低減が図られています。



図表1-43 駅端末交通手段の内訳(出典:第5回中京都市圏パーソントリップ調査(H25))



図表1-44 鉄道駅別乗車人員の推移(出典:おおぶの統計、H25愛知県都市計画基礎調査)

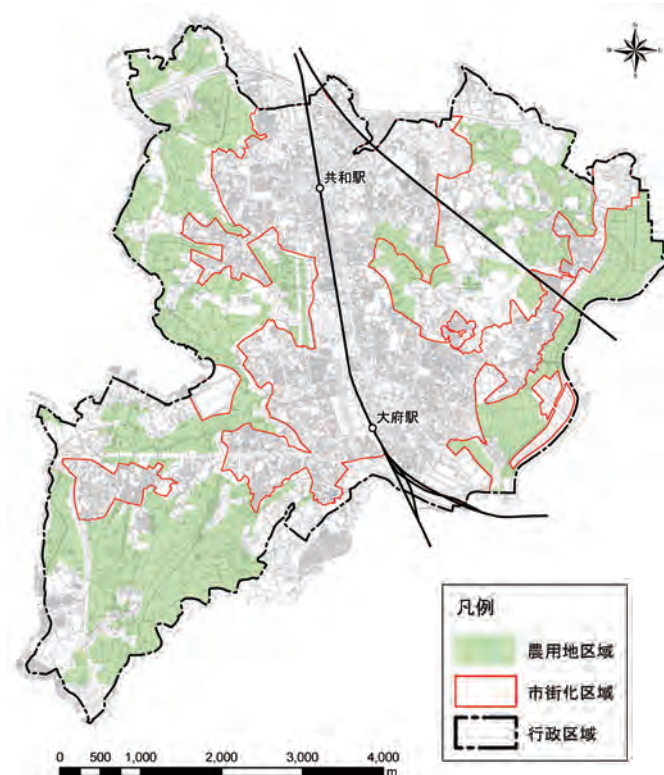


図表1-45 大府市循環バス「ふれあいバス」の利用状況(出典:大府市資料)

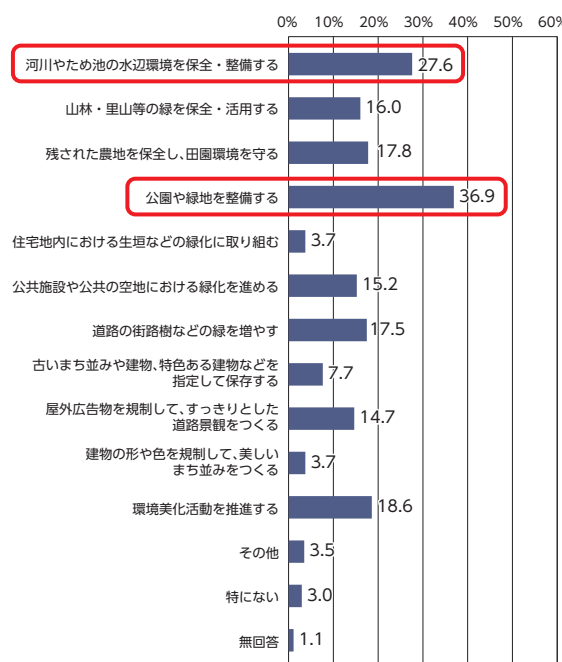
課 題

市街地を取り巻く農地や緑地、山林の保全【弱みを克服する】

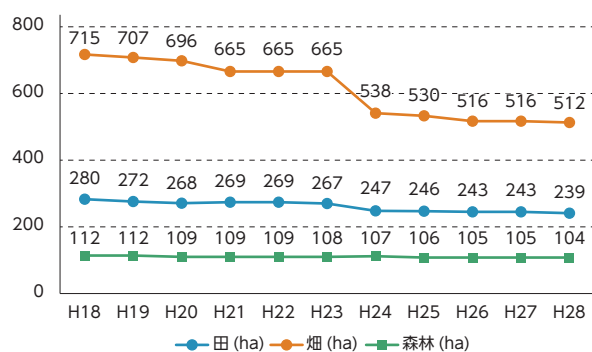
- 本市の市街化区域は主にJR東海道本線に沿って大府駅・共和駅を中心にまとまって配置されており、その外縁部には農用地区域が広がり、調和が図られているものの、農地や緑地、山林などの自然的土地利用が減少傾向にあります。
- 都市的土地利用の進行により、農地・山林などの自然的土地利用が減少傾向にあります。
- 生産緑地などの都市緑地が減少しています。
- 市民アンケート調査では、緑とうるおいのある都市環境創出のために必要な取組や整備について、「公園や緑地を整備する(36.9%)」「河川やため池の水辺環境を保全・整備する(27.6%)」が高い回答率となっています。



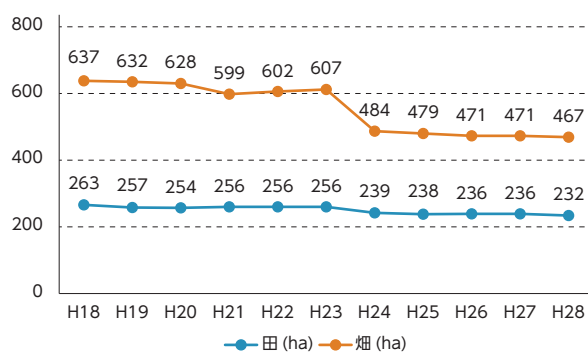
図表1-46 農用地区域(再掲)



図表1-47 緑とうるおいのある都市環境創出のために必要な取組や整備に関する回答
(出典:H29市民アンケート)



図表1-48 行政区域における自然的土地利用の推移
(出典:土地に関する統計年報)

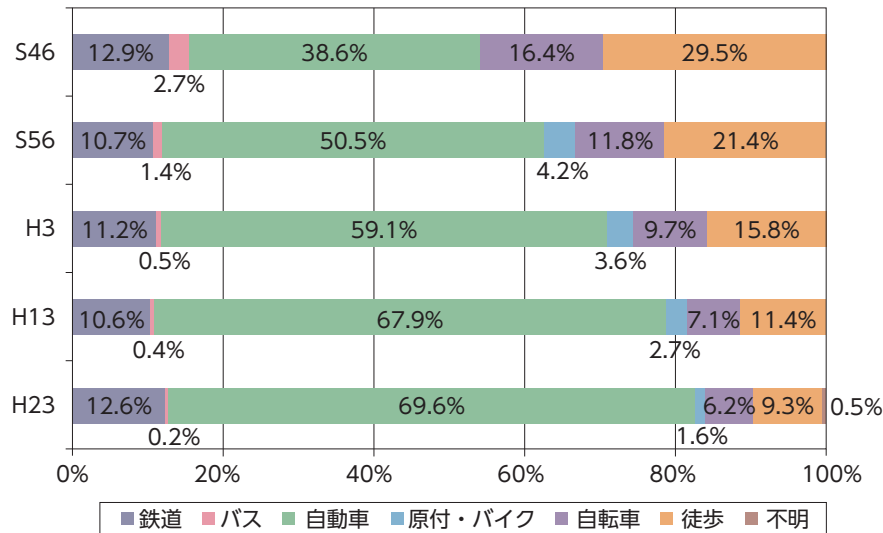


図表1-49 市街化調整区域における自然的土地利用の推移
(出典:土地に関する統計年報)

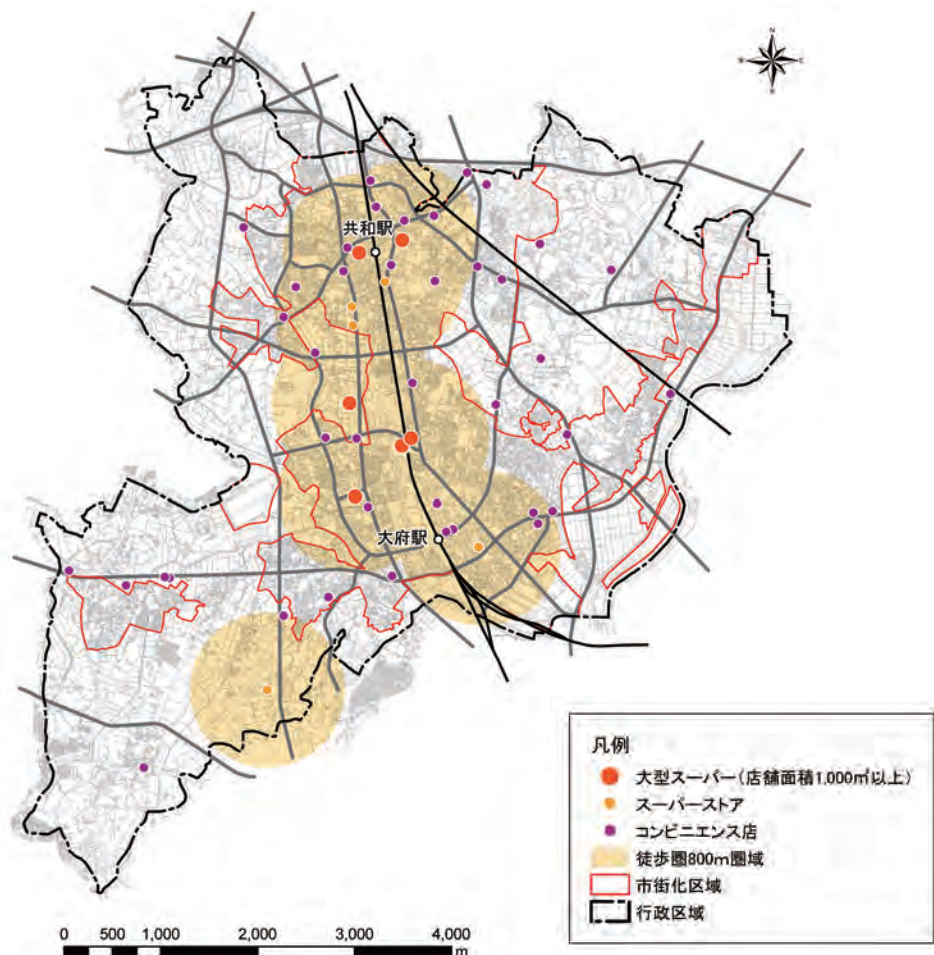
課題

過度に自動車に依存しなくても暮らしやすい都市構造や生活圏の形成
【弱みを克服する】

- 過去40年間で、自動車への依存度は大きく高まる一方、徒歩や自転車利用は大きく減少しています。
- 最寄り小売店舗は市内各地域に分布していますが、小規模なコンビニエンスストアを除くと、市街化区域でも小売店舗の徒歩圏に含まれない地域がみられます。(再掲)



図表1-50 目的・手段別移動の内訳(出典:第5回中京都市圏パーソントリップ調査(H25))

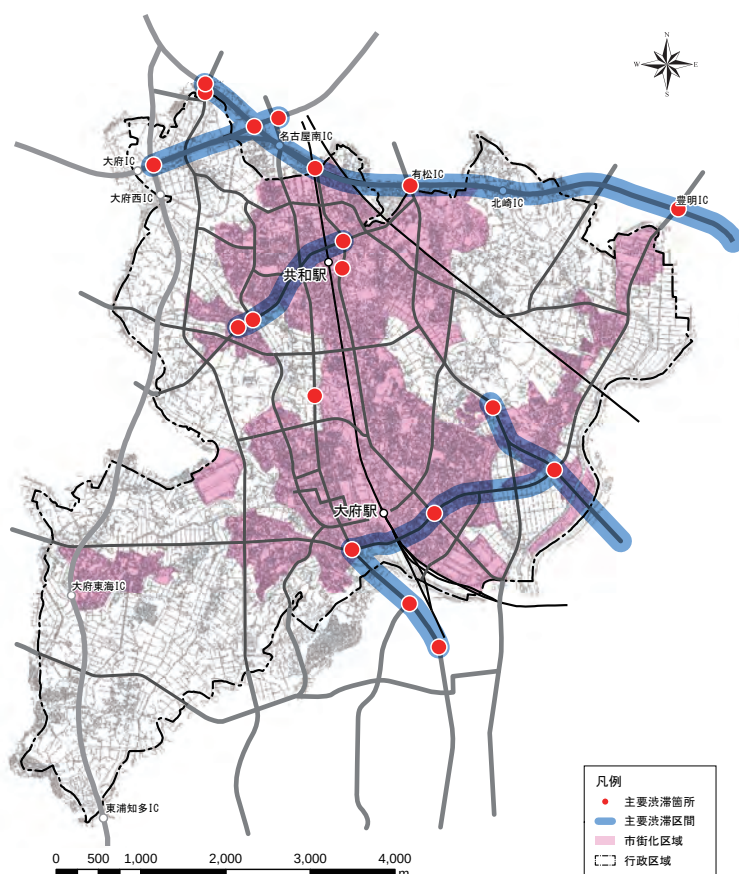


図表1-51 商業施設の分布状況(再掲)

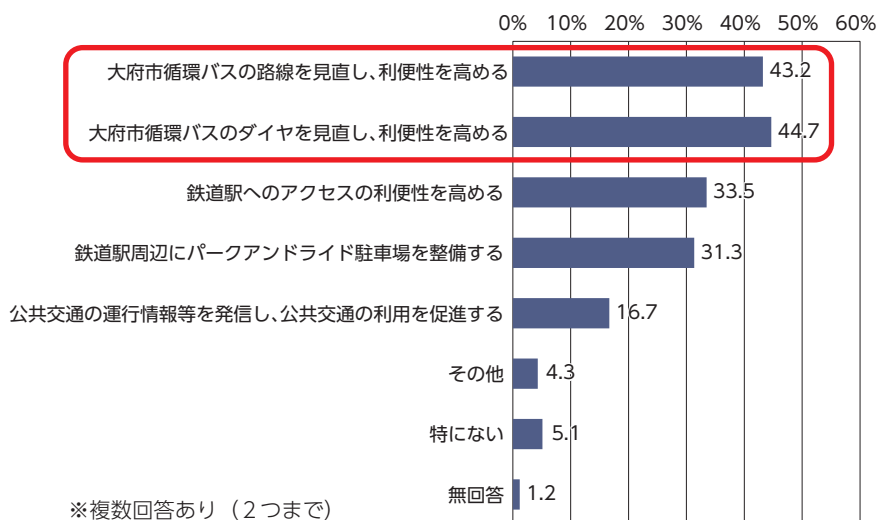
課 題

温室効果ガスの排出抑制など、環境負荷を低減するため、
利便性の高い公共交通網の維持・形成や自動車が円滑に移動できる
幹線道路などの整備 【弱みを克服する】

- 交通渋滞に起因する、自動車の排気ガスの排出増加による環境負荷が懸念されます。
- 市民アンケート調査では、大府市循環バスの運行により、買い物や通院などへ行くことのできる体制はあるものの、移動手段確保のために必要な取組として、「大府市循環バスのダイヤを見直し、利便性を高める(44.7%)」が最も高く、次いで「大府市循環バスの路線を見直し、利便性を高める(43.2%)」が高い回答率となっています。(再掲)



図表1-52 主要渋滞箇所(出典:中部地方整備局・名古屋国道事務所渋滞箇所公表資料(H25.1.22))



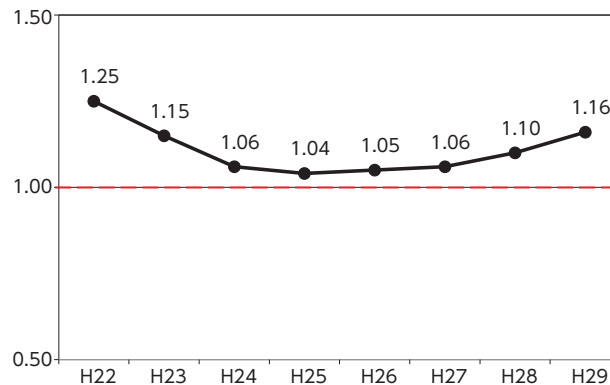
図表1-53 移動手段確保のために必要な取組や整備に関する回答 (再掲)

(5) 都市運営

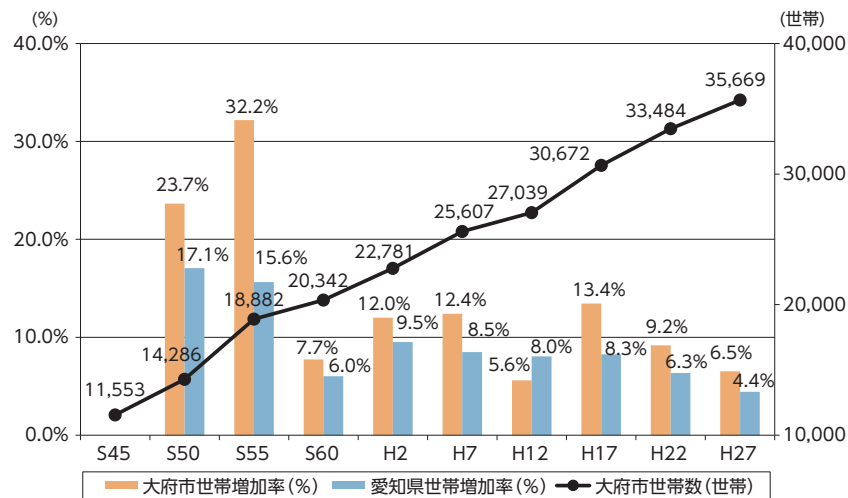
■ 効率的な都市運営による持続可能な都市づくり

課 題	効率的な都市運営の視点を踏まえた、持続可能な都市づくりの推進
課 題	住宅や産業立地の需要に対応した土地利用の推進による 安定的な収入の確保 【強みを伸ばす】

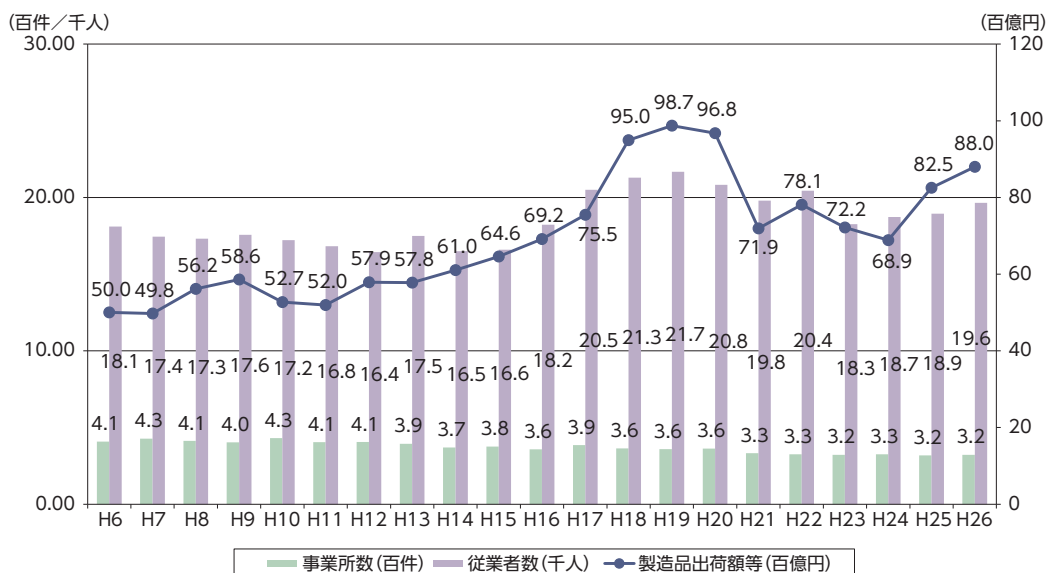
- 平成25年以降、財政力指数は概ね横ばいの状況にあり、平成29年時点で1.16となっています。
- 住宅と産業立地の需要が高まっています。



図表1-54 財政力指数(出典:総務省地方公共団体の主要財政力指標一覧)



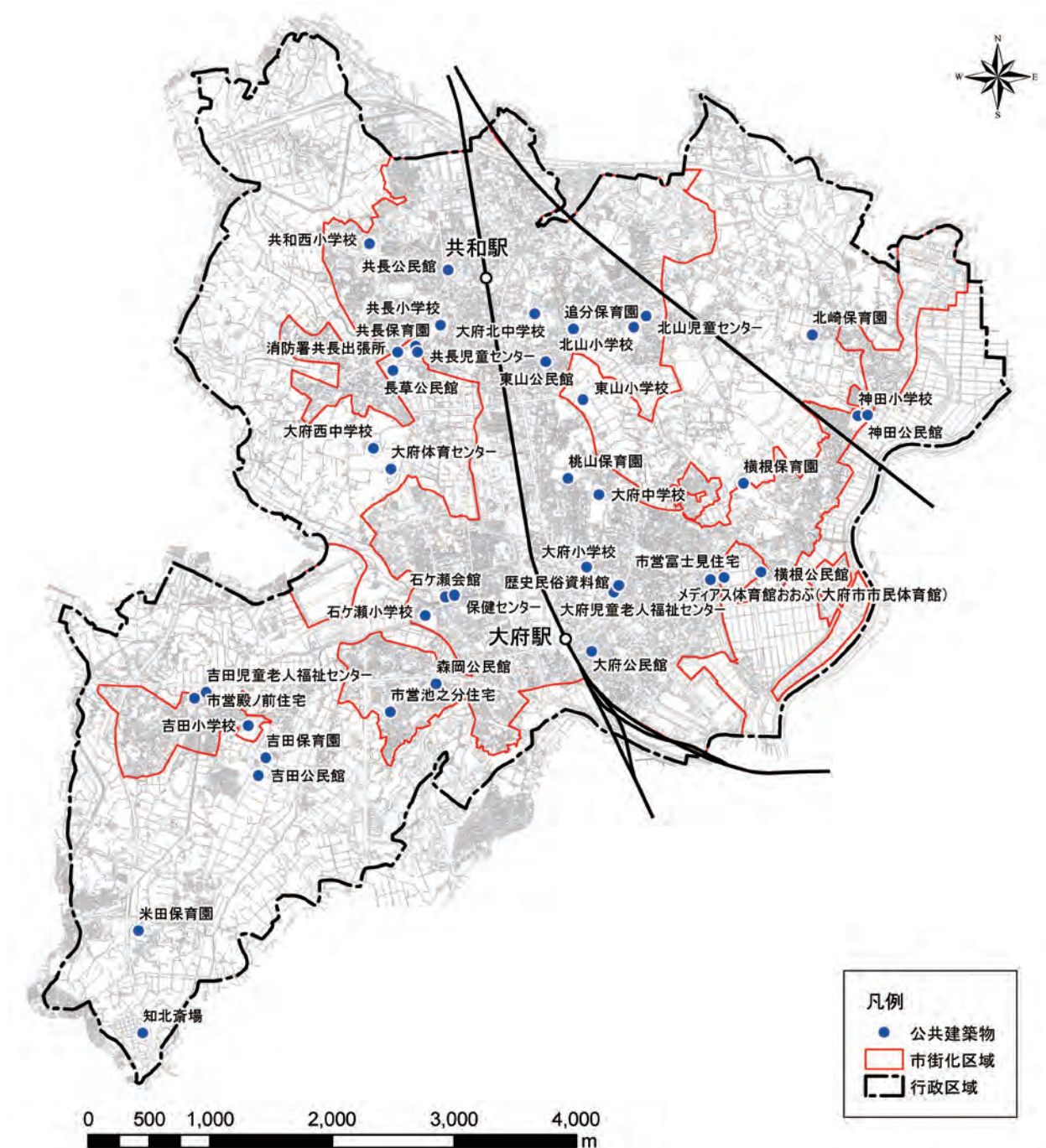
図表1-55 人口の推移(再掲)



図表1-56 事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移(再掲)

課 題	財政計画を踏まえた、選択と集中による効果的な都市づくりの検討
課 題	建設から長期間経過したインフラ施設の 計画的で効率的な修繕・更新の実施によるコストの削減
課 題	市民との協働促進による身近なインフラ施設の維持管理や 民間活力の導入の促進 【弱みを克服する】

- 義務的経費の支出は近年概ね横ばい状況にあります。義務的経費が徐々に増加していくとの見通しがあり、今後財政構造の硬直化が進んでいく懸念もあります。
- 今後、下水道や公共建築物の老朽化に伴う施設維持更新費の増加が見込まれます。
- PPP / PFI などによる効率的な公共施設運営が求められています。



図表1-57 建設から30年以上(1989年以前)経過した公共建築物の分布状況
(参考:大府市公共施設等総合管理計画)